

DIGITAL PIANO

SCLP-430B

取扱説明書

安全上のご注意




ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してごくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

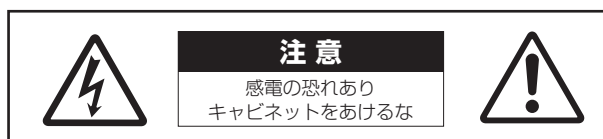
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」



警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。

ほかの電源コード / プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

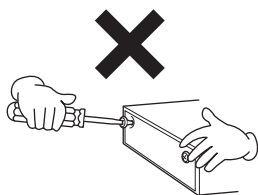
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりません。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード / プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品中に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

電源 / 電源コード



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などをはさまないように注意する。

お客様がけがをされるおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方がけがをされたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様やほかの方がけがをされる原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをされる原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをされる原因になります。



禁止

イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをされたりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。

背もたれがないため、後方へ転倒してけがをされるおそれがあります。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- ・ テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- ・ 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・ 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく(結露する)ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■ データの保存に関する注意

- ・ 保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USB記憶装置/コンピューターなどの外部機器に保存してください。
- ・ 保存したUSB記憶装置の万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSB記憶装置にバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ・ ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- ・ 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

このたびは、ヤマハ電子ピアノをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
この楽器の優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)
- 保証書
- ユーザー登録のご案内
 - * ユーザー登録の際に必要なプロダクトIDが記載されています。
- 電源コード
- ヘッドフォン
- 高低自在イス

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

■ 冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の機能や使いかたを説明しています。

• 基本編

簡単な準備のあと、ピアノ演奏を楽しめます。さっそく音を出してみましょ。

• 応用編

曲を再生/録音したり、曲ファイル进行操作したりなど、電子ピアノとしての機能について説明しています。

• 詳細設定編

この楽器をさらに便利に使いこなすための細かい設定について説明しています。

• 付録

メッセージ一覧や音色一覧などの資料を掲載しています。

■ PDFマニュアル



MIDIリファレンス

MIDIデータフォーマットやMIDIインプリメンテーションチャートを掲載しています。



MIDI入門

MIDIについての詳細や使いかたを説明しています。

ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「SCLP-430B」など)を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

特長

グランドピアノに迫る表現力「リアルグランドエクスプレッション(RGE)音源」

コンサートグランドピアノを演奏するような弾きごたえと表現力が楽しめる音源です。タッチの強弱にあわせて音色が変化するだけでなく、スタッカートで弾いたときには歯切れよく、ゆっくりと指を離したときには長く余韻を残すという音切れの違いまで再現できる「スムーズリリース」を新搭載。ピアノ演奏の本質を徹底的に追求し、グランドピアノらしい豊かな表現力を生んでいます。

進化したタッチと表現力「グレードハンマー 3(GH3)鍵盤」

鍵盤の重さ(低音部は重く、高音部は軽く)などをグランドピアノに近づけたことにより、従来の電子ピアノを超える弾き心地が楽しめます。また、グランドピアノと同様にペダルを踏まずに音をつなげる奏法や高速の同音連打も可能です。

10種類のピアノ音色

この楽器には10種類のピアノ音色が内蔵されています。曲の雰囲気に合わせて、お好みのピアノ音色で演奏をお楽しみください。

レッスンにも役立つ「ピアノの名曲100曲」

ピアノの名曲としてなじみの深い100曲(ピアノ曲50曲、クラシック曲50曲)を収録しています。BGMとして流すだけでなく、片方のパート(右手または左手)だけを再生して片手ずつ練習したり、自分にあったテンポに調節できます。ピアノ曲50曲には楽譜集「ピアノで弾く名曲50選」も付属しています。

目次

安全上のご注意	2
注記(ご使用上の注意)	6
お知らせ	6
付属品(お確かめください)	7
取扱説明書について	7
特長	8

基本編

各部の名前と機能	10
ピアノとして演奏する	12
キーカバーについて	12
譜面立てを使う	12
電源を入れる	13
音量を調節する	14
ヘッドフォンを使う	14
スピーカーのオン/オフを切り替える	14
ペダルを使う	15
鍵盤タッチ(タッチ感度)を変える	16
メトロノームを使う	17
楽器のお手入れ	18

応用編

いろいろな楽器音(音色)で演奏する	19
音色を選ぶ	19
音色デモ曲を聞く	19
音に変化を付ける(プリリアンス/リバーブ/ エフェクト)	20
キーを変える(移調)	21
2つの音色を重ねる(デュアル)	22
曲を再生する	23
この楽器で再生できる曲	23
曲を再生する	24
再生に関する便利な機能	25
右手または左手パートだけを再生する	26
繰り返し再生する	27
演奏を録音(記録)する	28
パートを指定せずに録音する	28
パートを指定して録音する	30
録音した演奏を削除する	31
録音後に音色やテンポなどを変更する	31

曲ファイル进行操作する	33
この楽器に録音したユーザー曲を、USB記憶装置に 保存(コピー)する	34
USB記憶装置に録音したユーザー曲を、楽器に読み 込む	35
USB記憶装置に録音したユーザー曲を削除する ..	36
USB記憶装置をフォーマット(初期化)する	37
他の機器と接続する	38
端子について	38
USB記憶装置を接続する	40
コンピューターと接続する	41
外部MIDI機器と接続する	42

詳細設定編

各種の便利な設定をする(ファンクション)	43
ファンクションでの基本操作	44
各ファンクション項目の説明	45
初期設定(工場出荷時の状態)に戻す	50

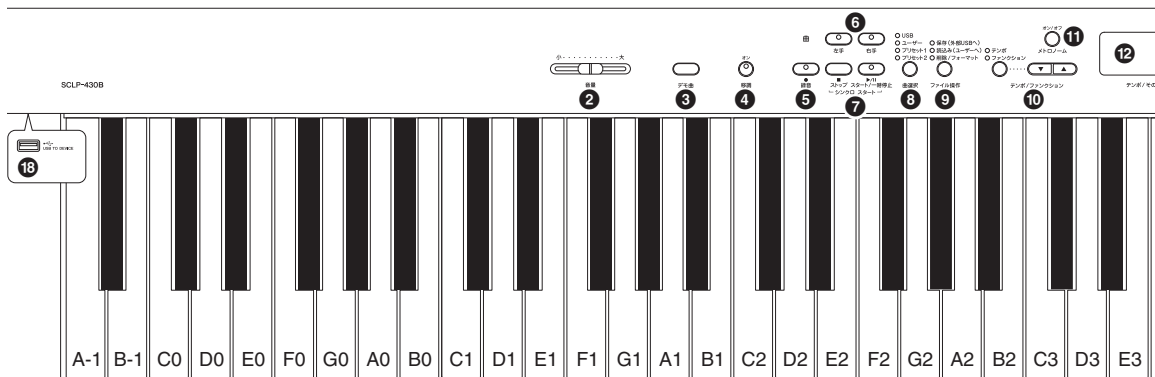
付録

メッセージ一覧	51
困ったときは	52
音色一覧	53
曲一覧	54
初期設定一覧	56
ファンクション	56
組み立て	57
仕様	60
索引	61
保証とアフターサービス	63

基本編

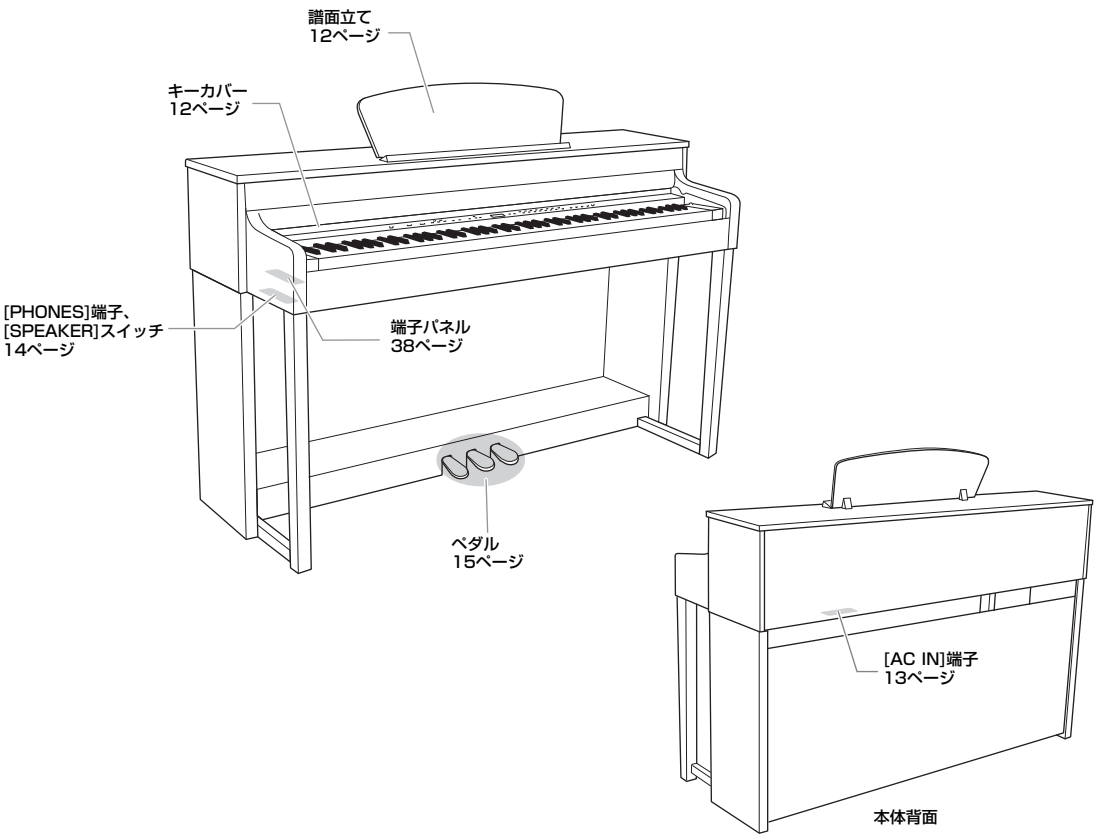
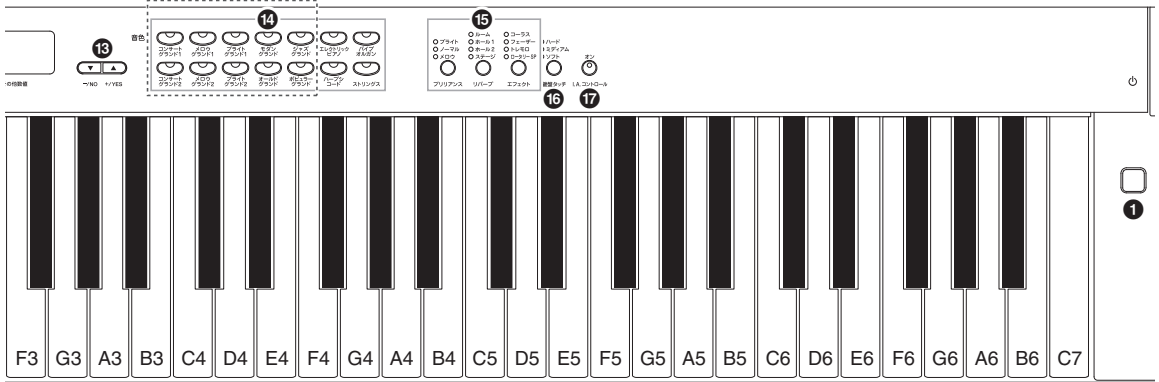
各部の名前と機能

操作パネル



- ① [⏻]電源スイッチ..... 13ページ
- ② [音量]スライダー 14ページ
楽器全体の音量を調節します。
- ③ [デモ曲]ボタン 19ページ
音色ごとのデモ曲を再生します。
- ④ [移調]ボタン 21ページ
弾く鍵盤を変えずに、他の楽器や歌う人の声の高さに合わせて、キー(調)を簡単に変えられます。
- ⑤ [録音]ボタン 28ページ
ご自身の演奏を録音します。
- ⑥ [右手]、[左手]ボタン 26ページ
曲の特定のパートをオン/オフします。
- ⑦ [スタート/一時停止]、[ストップ]ボタン 24ページ
内蔵曲、この楽器で録音した曲、市販の曲データなどを、再生したり停止したりします。
- ⑧ [曲選択]ボタン 24ページ
再生したい曲の入ったドライブや、録音データの保存先を選びます。
- ⑨ [ファイル操作]ボタン 33ページ
この楽器に録音した曲をUSB記憶装置に保存(コピー)するなどのファイル操作をします。USB記憶装置のフォーマットもできます。
- ⑩ [テンポ/ファンクション]、
[テンポ/ファンクション ▼ ▲]ボタン 17、44ページ
テンポを調節したり、各種の便利な機能を利用したりします。
- ⑪ [メトロノーム]ボタン 17ページ
メトロノームを鳴らします。
- ⑫ 画面 13ページ
注記
「-」が流れて表示されているとき(データアクセス中)は、電源を切らないでください。データが壊れるおそれがあります。
- ⑬ [-/NO]、[+ /YES]ボタン
数値を設定したり、曲や項目を選んだりします。テンポや移調などの値を設定しているときにボタンを2つ同時に押すと、元の値(初期設定値)に戻せます。
- ⑭ 音色ボタン 19ページ
音色を選びます。
NOTE
この取扱説明書では、上記イラスト(11ページ)の破線内の音色を総称してグランドピアノ音色と呼んでいます。
- ⑮ [ブリリアンス]、[リバーブ]、[エフェクト]ボタン 20ページ
音の明るさ(ブリリアンス)を調節したり、音に残響(リバーブ)や、効果(エフェクト)をかけたりします。
- ⑯ [鍵盤タッチ]ボタン 16ページ
弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)を調節します。
- ⑰ アイ エー
[I . A . コントロール]ボタン 14ページ
音量の大小に合わせて、音質が自動的に補正されます。
- ⑱ [USB TO DEVICE]端子 40ページ
トップ デバイス
USB記憶装置を接続して、この楽器に録音した曲を保存(コピー)したり、記憶装置に入っているデータを楽器本体で再生します。

グランドピアノ音色



ピアノとして演奏する

簡単な準備のあと、ペダルを使ってアコースティックピアノと同様の演奏が楽しめます。また、演奏に役立つメトロノーム機能なども備えています。付属の「ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)」も併せてご活用ください。

キーカバーについて

⚠ 注意

- キーカバーを開閉するときは、両手でゆっくりと行なってください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの緑と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。
- キーカバーを開けると、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

注記

[USB TO DEVICE]端子に別売のUSB記憶装置を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB記憶装置を接続したままキーカバーを閉じると、記憶装置がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。

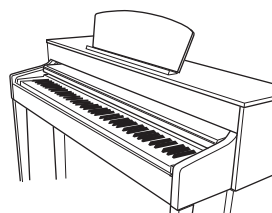
開けるとき

少し持ち上げて奥へ押し込むと、操作パネルが見え、キーカバーが完全に開いた状態になります。鍵盤演奏だけでなく、操作パネルを使って、音色を選んだり、曲を再生/録音したりできます。



手や指をはさまないように注意

鍵盤だけが見え操作パネルが隠れた状態で、キーカバーを止めることもできます。アコースティックピアノのような感覚でお使いいただけます。



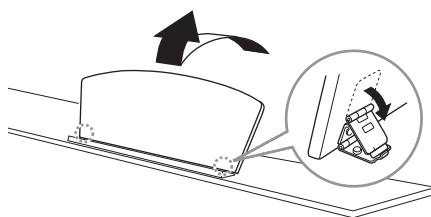
閉めるとき

手前に引いて、静かに降ろします。

譜面立てを使う

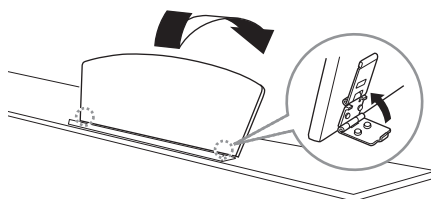
立てるとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を下ろします。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まる位置まで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右2つの金具を上げます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

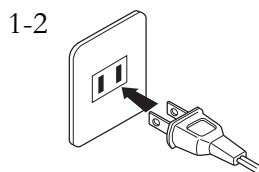
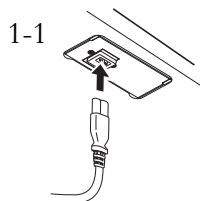


- ⚠ 注意 金具が固定されていない位置で譜面立てを使用したり、放置したりしないでください。また、譜面立てを立てたり倒したりするときは、途中で手を離さないでください。

電源を入れる

1. 電源コードを接続する

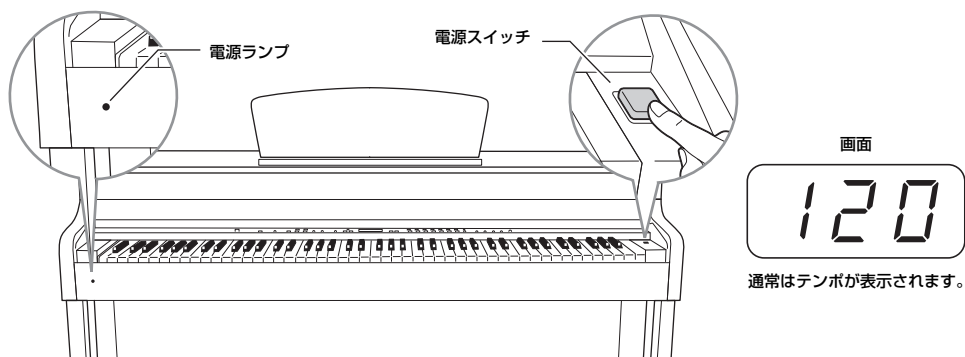
最初に本体側のプラグを[AC IN]端子に差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。[AC IN]端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。



2. 電源を入れる

鍵盤右の[⏻]電源スイッチを押すと、電源が入ります。

本体パネル中央の画面に表示が現れ、本体前面左の電源ランプが点灯します。



電源ランプについて

電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯により、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

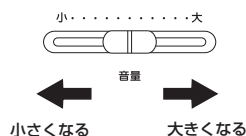
電源を切るときは、もう一度電源スイッチを押します。

画面の表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

⚠ 注意 電源が切れた状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

音量を調節する

本体パネル左の[音量]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



[音量]スライダーを動かすと、[PHONES]端子やAUX OUT端子の出力レベルも変更されます。

注意 大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

I. A.コントロール(インテリジェント アコースティック コントロール)

I. A.コントロール (Intelligent Acoustic Control)とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。



I.A. コントロール

[I. A.コントロール]ボタンを押すごとにオン/オフが切り替わります。オンにするとランプが点灯します。

I. A.コントロールは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

補正のかかり具合を変える

[I. A. コントロール]ボタンを押している間は画面に補正のかかり具合の値が表示されます。

[I. A. コントロール]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、値(-3~0~3)が変わります。値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。

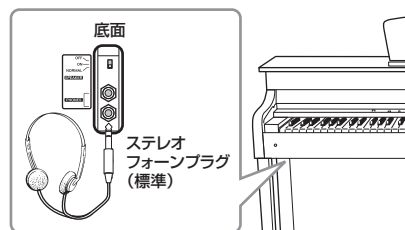
[I. A. コントロール]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。

ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを^{フォーンズ}[PHONES]端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

注意 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

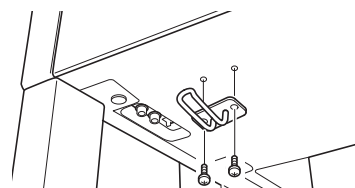
別売ヘッドフォン
ヤマハヘッドフォン HPE-160



ヘッドフォンハンガー

付属のヘッドフォンハンガーを取り付けると、本体にヘッドフォンを掛けられます。付属のネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付けてください。

注記
ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けしないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。



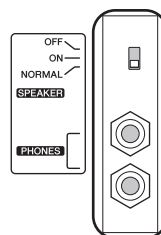
スピーカーのオン/オフを切り替える

[SPEAKER]スイッチで、本体スピーカーのオン/オフを切り替えます。

OFF.....スピーカーは鳴りません。

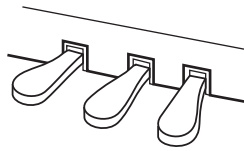
ON常にスピーカーが鳴ります。

^{ノーマル}
NORMALヘッドフォンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。



ペダルを使う

ペダルには、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます。グランドピアノの音色で、ダンパーペダルを踏むと、踏んだときの響板や弦の共鳴効果がかかります。共鳴効果のかかり具合については、ファンクション(43ページ)で設定できます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

ハーフペダル機能

ダンパーペダルを踏んでいない状態と、完全に踏み込んだ状態の中間の状態を「ハーフペダル」といい、グランドピアノのダンパーが弦に触れるか触れないかの微妙な状態を指します。この楽器のダンパーペダルはハーフペダルに対応しており、どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)を、ファンクション(43ページ)で設定できます。

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。パイプオルガンやストリングス音色では、鍵盤を弾いたままソステヌートペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた鍵盤の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんが、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。

まん中のペダルと左のペダルのスタート/ストップ機能切り替え
ファンクション(43ページ)でまん中のペダルか左のペダルをパネルの[スタート/一時停止]と同じ機能に切り替えることができます。

NOTE

エフェクト(21ページ)でロータリーSPを選ぶと、左ペダルは、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いを切り替える機能に変わります。

鍵盤タッチ(タッチ感度)を変える



[鍵盤タッチ]ボタンを押すごとに、弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感度)が切り替わります。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

ハード.....強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

ミディアム.....標準的なタッチです。

ソフト.....軽いタッチで大きい音を出すことができます。

フィックス.....タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。フィックスが選ばれているときは、どのランプも点灯しません。

「フィックス」の場合の音量を変える

フィックスを選んでいるとき(どのランプも点灯していないとき)、[鍵盤タッチ]ボタンを押している間は画面に音量を示す値が表示されます。[鍵盤タッチ]ボタンを押したまま[-/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、音量を示す値(1~127)が変わります。

[鍵盤タッチ]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(64)に戻ります。



音量

NOTE

鍵盤の重さ自体は変わりません。

初期設定

ミディアム

NOTE

タッチ感度の種類は全音色に共通の設定です。ただし、音色によっては、鍵盤を弾く強さ(タッチ)に応じた音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(53ページ)をご参照ください。

NOTE

フィックスの場合の音量も全音色に共通の設定です。

設定範囲

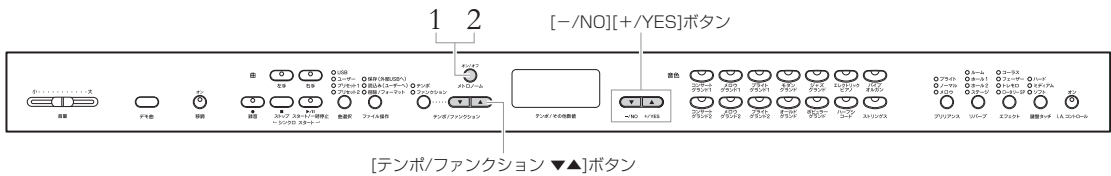
1(最小音量)~127(最大音量)

初期設定

64

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。



1. メトロノームを鳴らす

[メトロノーム]ボタンを押すと、メトロノームが鳴ります。



メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

メトロノームの音量はファンクション(43ページ)で設定できます。

テンポの調節

「テンポ」のランプが消灯している場合は、[テンポ/ファンクション]ボタンを押して、「テンポ」のランプを点灯させてください。その状態で、[テンポ/ファンクション ▼▲]ボタンを押して、テンポ値(5~500 [1分間の拍数])を変えます。[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと初期設定(120)に戻ります。

NOTE

テンポや拍子の初期設定は、曲ごとに異なります。曲を選ぶと、ここでの設定はキャンセルされ、選択した曲固有のテンポや拍子に切り替わります。

拍子の設定

[メトロノーム]ボタンを押している間は画面に拍子が表示されます。



拍子

[メトロノーム]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して拍子(0~15)を設定します。たとえば4拍子の場合は「4」に設定します。

1拍目に「チーン」と鳴りその他の拍では「カチ」と鳴ります。

0に設定したときは「チーン」と鳴らずに、すべての拍で「カチ」と鳴ります。

[メトロノーム]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。

2. メトロノームを止める

[メトロノーム]ボタンを押すと、メトロノームは止まります。

楽器のお手入れ

この楽器をいつまでもきれいに保つため、下記のお手入れを定期的に行なうことをおすすめします。

■ 本体やイスのお手入れ

- 乾いたガーゼのような柔らかい布や、水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。

注記 ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。変色/変質の原因になります。

- 本体やイスのネジは、定期的に締め直してください。

■ イスの高さ調節

ハンドルを時計回りに回すと高くなります。(ご購入時には、ハンドルは固めに設定されています。)

■ ペダルのお手入れ

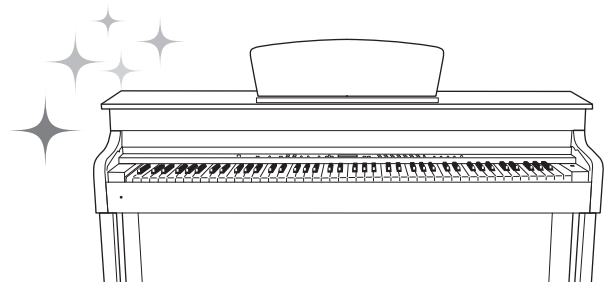
ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様、経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認ください。うえご使用ください。

■ 調律

調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ(音の高さ)でお使いいただけます。

■ 運搬方法

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

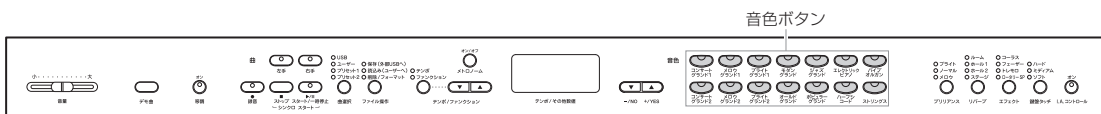


応用編

いろいろな楽器音(音色)で演奏する

グランドピアノ音色、オルガン、弦楽器などの楽器音を選んで弾くことができます。

音色を選ぶ



音色ボタンを押してランプを点灯させます。鍵盤を弾いて音を出してみましょう。各音色についての説明は、「音色一覧」をご覧ください。

強弱の付かない音色

音色によっては、鍵盤を弾く強さ(タッチ)に応じた音の強弱が付かないものがあります。「音色一覧」(53ページ)をご参照ください。

音色デモ曲を聞く

音色の特徴をつかむために、音色ごとのデモ曲を聞いてみましょう。

デモ曲一覧

音色	曲名	作曲者
コンサートグランド1	幻想即興曲	F. F. ショパン
メロウグランド1	愛の夢 第3番	F. リスト
ブライトグランド1	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
モダングランド	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
ジャズグランド	Someone to Watch Over Me (ミュージカル「Oh Key!」より)	G. ガーシュウィン
コンサートグランド2	トロイメライ	R. シューマン
メロウグランド2	別れの曲	F. F. ショパン
ブライトグランド2	小犬のワルツ	F. F. ショパン
オールドグランド	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
ポピュラーグランド	Embraceable You (ミュージカル「Girl Crazy」より)	G. ガーシュウィン
エレクトリックピアノ	オリジナル	オリジナル
パイプオルガン	トリオ ソナタ 第6番 BWV.530	J. S. バッハ
ハープシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ
ストリングス	オリジナル	オリジナル

エレクトリックピアノとストリングス音色以外の音色のデモ曲は、原曲を編集/抜粋したものです。エレクトリックピアノとストリングス音色のデモ曲は、ヤマハのオリジナルです。(© 2011 Yamaha Corporation)

NOTE

この取扱説明書では、コンサートグランド1からポピュラーグランドまでの音色を総称して、グランドピアノ音色と呼んでいます。



1. [デモ曲]ボタンを押して、デモ曲モードに入る

音色ボタンのランプ群が流れるように点滅します。

2. 選曲する/再生をスタートさせる

聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。デモ曲の再生がスタートし、ストップするまで「デモ曲一覧」(19ページ)の順番に別の音色のデモ曲が連続して再生されます。音色ボタンを押さずにいると、自動的にコンサートグランド1の曲の再生がスタートします。

3. 再生をストップしてデモ曲モードを抜ける

[デモ曲]ボタンか [ストップ]ボタンを押します。

再生途中で曲を一時停止させるときは、[スタート/一時停止]ボタンを押します。

モードとは

ある機能を実行できる状態を意味します。ここでは、デモ曲を再生できる状態のことを「デモ曲モード」と呼んでいます。

NOTE

録音モード(29ページ)やファイル操作モード(33ページ)のときはデモ曲モードに入れません。

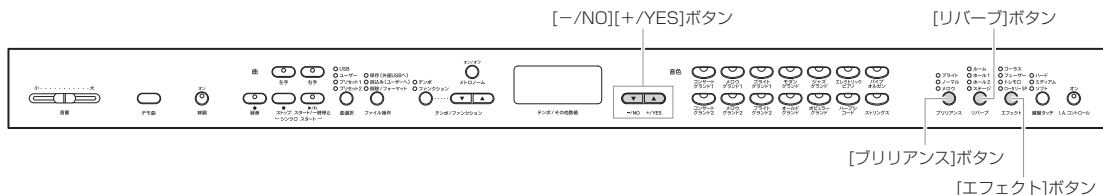
NOTE

デモ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲モードではMIDI受信を行いません。

NOTE

デモ曲では、テンポの調節や「パート再生」(26ページ)、「繰り返し再生」(27ページ)はできません。

音に変化を付ける(ブリリアンス/リバーブ/エフェクト)



[ブリリアンス]

[ブリリアンス]ボタンを押すごとに、楽器全体の音質が切り替わります。

- ブライト 明るく鋭い音
- ノーマル 標準的な音
- メロウ 柔らかくまろやかな音

2つのランプが点灯している場合は、2つの中間の音質になります。たとえば、「ノーマル」と「メロウ」のランプが両方点灯していたら、「ノーマル」と「メロウ」の中間の音質になります。

[リバーブ]

[リバーブ]ボタンを押すごとに、楽器全体の残響効果の種類が切り替わります。選ばれている効果のランプが点灯し、オフの場合はどのランプも点灯しません。各効果により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。効果のかけ具合を変えることもできます。

オフ リバーブはかかりません。グランドピアノ音色では、リバーブがオフの場合でもピアノの響板の響きを残すようになっています。

- ルーム 部屋の中にあるような響きになります。
- ホール1 小さいコンサートホールにあるような響きになります。
- ホール2 大きいコンサートホールにあるような響きになります。
- ステージ ステージにいるような響きになります。

初期設定

ノーマル

NOTE

「ブライト」にすると、音量が少し大きくなります。[音量]スライダーで音量が大きくなっていると音がひびくことがありますので、スライダーで音量を少し下げてください。

初期設定

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)やかかり具合が設定されています。

効果のかかり具合を変える

[リバーブ]ボタンを押している間は画面にリバーブのかかり具合の値が表示されます。
 [リバーブ]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、値(0~20)が変わります。
 [リバーブ]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定に戻ります。

[エフェクト]

[エフェクト]ボタンを押すごとに、楽器全体の音にかかる効果の種類が切り替わります。選ばれている種類のランプが点灯し、オフの場合はどのランプも点灯しません。効果のかかり具合を変えることもできます。

- オフ エフェクトはかかりません。
- コーラス 広がり感を付けます。
- フェーザー うねりを持たせます。
- トレモロ 音量を揺らします。
- ロータリー SP ロータリースピーカー (回転スピーカー) を使っているようなビブラート感が得られる効果です。

効果のかかり具合を変える

[エフェクト]ボタンを押している間は画面にエフェクトのかかり具合の値が表示されます。
 [エフェクト]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、値(0~20)が変わります。
 [エフェクト]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定に戻ります。

設定範囲

0(効果なし)~20(効果最大)

初期設定

音色ごとにエフェクトの種類(オフも含む)やかかり具合が設定されています。

NOTE

ロータリー SP を選ぶと、左ペダルは、ロータリースピーカーの回転の速い/遅いの切り替え機能に変わります。

設定範囲

0 (効果なし)~20 (効果最大)

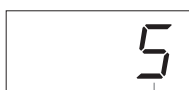
キーを変える(移調)

強く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲や再生する曲を移調したりできます。移調は半音単位で設定できます。たとえば移調の値を「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。



移調の値を設定する

[移調]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]を押して、半音単位で移調の値を設定します。[移調]ボタンを押したまま、[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。



移調の値

移調機能のオン/オフを切り替える

[移調]ボタンを押すごとに、移調機能のオン/オフが切り替わります。ランプが点灯したときがオンです。オフのときや移調の値が0のときは、ランプは点灯しません。

移調とは

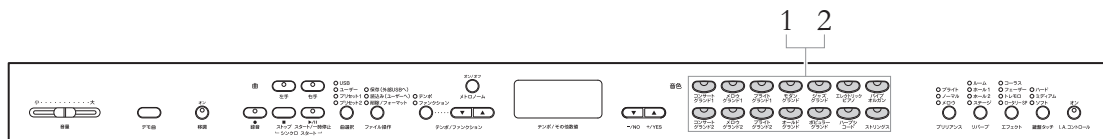
曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

移調の値

- 12: -12半音(-1オクターブ)
- 0: 標準の音の高さ
- 12: 12半音(+1オクターブ)

2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて同時に鳴らす機能です。2つの異なる系統の音色を重ねてメロディーをデュエットしたり、同系統の音色を重ねて厚みのある音色を作ります。



1. デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押して、2つの音色ボタンのランプを点灯させます。
鍵盤を弾いて音を出してみましょう。

第1音色/第2音色

右記の優先順位で、番号の小さい方の音色が第1音色、もう一方が第2音色になります。

優先順位

1	2	3	4	5	11	12
コンサート グランド1	メロウ グランド1	フライト グランド1	モダン グランド	ジャズ グランド	エレキリック ピアノ	ライブ オルガン
6	7	8	9	10	13	14
コンサート グランド2	メロウ グランド2	フライト グランド2	オールド グランド	オビスクラー グランド	ハーブシ コード	ストリングス

第1音色/第2音色の音量バランスやオクターブ設定をはじめとした、いろいろな設定がファンクション(43ページ)でできます。

2. デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

デュアル=2つ

デュアルのときの[リバーブ]

デュアルの組み合わせに最適なリバーブの種類が1つ自動的に選ばれます。
リバーブのかかり具合を設定するには、[リバーブ]ボタンを押したまま[-/NO]/[+/YES]ボタンを押します。デュアルの組み合わせに最適なかかり具合を設定できます。

デュアルのときの[エフェクト]

状況に応じて1つのエフェクトの種類が優先されます。
エフェクトのかかり具合を設定するには、[エフェクト]ボタンを押したまま[-/NO]/[+/YES]ボタンを押します。これは第1音色だけに有効です。ファンクション(43ページ)では、第2音色へのかかり具合も設定できます。

曲を再生する

再生して楽しむだけでなく、曲を再生しながら演奏の練習ができます。

この楽器で再生できる曲

この楽器では、曲は種類ごとに4つのドライブ(データ保存領域)に分類されています。[曲選択]ボタンの上部にある4つのランプ(プリセット1/プリセット2/ユーザー /USB)は、これらのドライブを示しています。

ドライブ	曲番号	曲の種類
プリセット1	001~050	プリセット曲 楽器に内蔵されているピアノ曲50曲です。曲名や作曲者は、「曲一覧」(54ページ)でご確認いただけます。「ピアノで弾く名曲50選」に楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。
プリセット2	001~050	プリセット曲 楽器に内蔵されているクラシック曲50曲です。曲名や作曲者は、「曲一覧」(55ページ)でご確認いただけます。
ユーザー	U.01~ U.10	この楽器で録音したユーザー曲/この楽器に読み込んだユーザー曲 この楽器で録音した曲(28ページ)や、ファイル操作(33ページ)の「読み込み(ユーザーへ)」で楽器へ読み込んだ曲です。
	001~XXX	この楽器に読み込んだ外部の曲 コンピューターからこの楽器に読み込んだ曲です(41ページ)。
USB	U.00~ U.99	この楽器でUSB記憶装置に録音したユーザー曲/USB記憶装置に保存(コピー)したユーザー曲 この楽器でUSB記憶装置に録音した曲(28ページ)や、ファイル操作(33ページ)の「保存(外部USBへ)」でUSBに保存(コピー)した曲です。
	001~XXX	USB記憶装置に保存した外部の曲 市販の曲やコンピューターで編集した曲などを、USB記憶装置に保存したものです。999曲(001~999)まで表示できます。

この楽器で再生できる曲のデータ形式

• SMF (Standard MIDI File) フォーマット0と1

MIDI曲の代表的なフォーマットです。一般的なSMFにはフォーマット0とフォーマット1があり、多くのMIDI機器がSMFフォーマット0に対応しています。また、市販のミュージックデータの多くがSMFフォーマット0で作られています。この楽器で録音した曲はSMFフォーマット0になります。

• ESEQ

ヤマハの多くの機器やミュージックデータで採用されているMIDI曲のフォーマットです。この楽器で再生できるのは、ピアノプレーヤ用の曲のみです。

ユーザー曲と外部の曲

この楽器で録音した曲を「ユーザー曲」といい、この楽器以外で作られた曲は「外部の曲」といいます。USB記憶装置では、ユーザー曲は「USER FILES」フォルダー内に入っています。

NOTE

曲番号の「xxx」は数字を示しています。

NOTE

曲番号は、「ユーザー」ドライブの場合U.01~U.10、001~XXXの順、「USB」の場合はU.00~U.99、001~XXXの順になっています。

NOTE

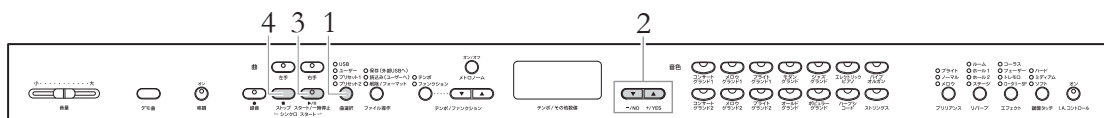
MIDIについては、PDFマニュアル「MIDI入門」で詳しく説明しています。

NOTE

この楽器で再生可能なMIDIデータのサイズは、1曲につき約550KBまでです。

曲を再生する

曲の再生方法を説明します。USB記憶装置内の曲を再生したい場合は、「USB記憶装置を接続する」(40ページ)を読み、USB記憶装置を[USB TO DEVICE]端子に接続してから下記手順に従ってください。



1. ドライブを選ぶ

[曲選択]ボタンを押して、再生したい曲の入ったドライブのランプ(プリセット1/プリセット2/ユーザー/USB)を点灯させます。

[USB] ドライブは、USB記憶装置を接続しているときのみ選べます。

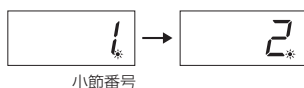
2. 曲を選ぶ

[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、曲番号または「rnd」、「ALL」を選びます。

- ・ **曲番号**聞きたい曲を1曲指定して再生します。曲番号については23ページの表をご覧ください。
- ・ **rnd (ランダム)**選んだドライブ内のすべての曲を順不同に連続再生します。
- ・ **ALL (オール)**選んだドライブ内のすべての曲を順番に連続再生します。

3. 再生をスタートさせる

[スタート/一時停止]ボタンを押すと再生がスタートします。
スタート後、画面に再生中の小節番号が表示されます。



再生しながら演奏することもできます。手弾き音の音色も変えられます。

テンポの調節

[テンポ/ファンクション]ボタンの「テンポ」のランプが点灯している状態で、[テンポ/ファンクション ▼▲]ボタンを押してテンポを変更します。[▼]と[▲]ボタンを同時に押すと元のテンポに戻ります。

一時停止

再生中に[スタート/一時停止]ボタンを押すと、その時点での再生位置で一時停止します。再度[スタート/一時停止]ボタンを押すと、その位置から再生を再開します。

巻き戻し/早送り

再生中または一時停止中に、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押すと、ボタンを押している間、巻き戻し/早送りをします。

NOTE

- 以下の状態のときは、[曲選択]ボタンは操作できません。
- ・ デモ曲モード(20ページ)
 - ・ 録音モード(29ページ)
 - ・ ファイル操作モード(33ページ)

NOTE

メトロノームを鳴らしながら再生することもできます。再生をストップすると、メトロノームも同時に止まります。

再生できない場合

曲を選んだときに、[右手][左手]ボタンのランプが両方とも消灯している場合は、その曲番号にはデータがありません。この場合、曲は再生できません。

NOTE

曲の始めに無音の状態が記録されている場合にも、曲は実際に音があるところから再生されます。

NOTE

別の曲を選ぶと(または、mdやALLで別の曲がスタートすると)、自動的にその曲固有のテンポに切り替わります。

曲再生中のリバーブ/エフェクト

リバーブやエフェクトは、別の曲を選ぶと(または、連続再生で別の曲がスタートすると)、自動的にその曲に合ったものに変わります。

曲のMIDI送信について

曲は、MIDI送信されません。ただし、ファンクション(43ページ)で曲の再生チャンネルを「1-2」に設定すると、3~16チャンネルが外部機器にMIDI送信されます。

4. 再生をストップする

[ストップ]ボタンを押すと、再生がストップします。

手順2で曲番号を指定した場合は、1曲の再生が終了と同時にストップします。

この楽器にはない音色を含む曲を再生する場合

この楽器に入っていない音色を含む曲(XGやGMの曲など)を再生すると、本来の音色が再現されません。この場合、ファンクション(43ページ)で曲の再生チャンネルを「1-2」に設定すると、3~16チャンネルが消音されるため、1~2チャンネルがピアノ音であれば、本来の曲の音を再現できます。

USB記憶装置に保存された外部の曲が再生できない場合

ファンクション(43ページ)で、文字種を切り替えてみてください。

再生に関する便利な機能

右手または左手パートだけを再生する

右手パートだけを再生すれば左手の練習、左手パートだけを再生すれば右手の練習ができます。手順は26ページをご覧ください。

繰り返し再生する

1曲内のある範囲を指定して繰り返し再生することができます。難しいフレーズを繰り返し練習するときなどに便利です。上記のパート別再生の機能と同時に使うこともできます。手順は27ページをご覧ください。

弾くと同時に再生をスタートする

鍵盤を弾くと同時に再生をスタート(シンクロスタート)することができます。

[ストップ]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押すとシンクロスタート待機状態になります。[スタート/一時停止]ボタンのランプが曲のテンポに合わせて点滅します。

(シンクロスタートを解除するには、[ストップ]ボタンを押します。)

このあと鍵盤を弾くと、同時に再生もスタートします。

シンクロ=同時の、同時に起こる

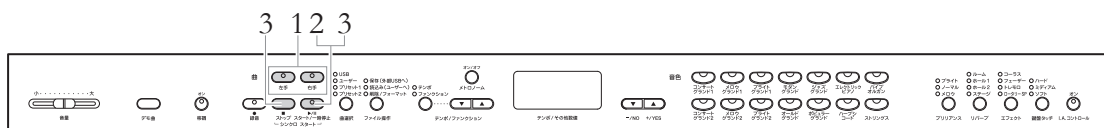
ペダルで再生/一時停止する

ファンクション(43ページ)でまん中のペダルか左のペダルの機能を再生/一時停止(パネルの[スタート/一時停止]ボタンと同じ機能)に切り替えることができます。

鍵盤を弾きながら、曲を再生/一時停止したいときに便利です。

右手または左手パートだけを再生する

曲データには、右手パートと左手パートに分かれているものがあります。このような曲データの場合、右手パートだけをオンにして左手の練習を、左手パートだけをオンにして右手の練習ができます。



1. 一方のパートの再生をオフにする

曲を選ぶと(24ページ)、[右手]と[左手]のランプが両方とも点灯するので、オフにしたい(練習したい)方のパートのボタンを押して、ランプを消灯させます。それぞれのボタンは、押すごとに再生のオン/オフが切り替わります。

2. 再生をスタートさせる

[スタート/一時停止]ボタンを押すと再生がスタートします。
再生パートはお手本として聞き、再生をオフにしたパートは自分で弾きます。

3. 再生をストップする

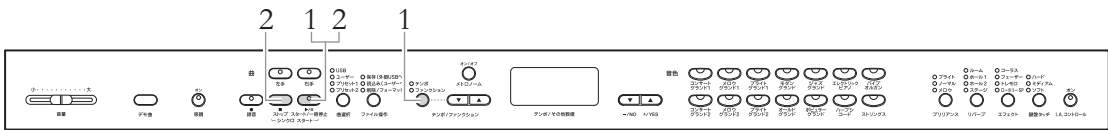
曲の再生が終了すると、自動的にストップし、曲の先頭に戻ります。
再生途中でストップしたい場合は、[ストップ]ボタンまたは [スタート/一時停止]ボタンを押します。[ストップ]ボタンを押すと再生位置は先頭に戻りますが、[スタート/一時停止]ボタンを押すとその時点の再生位置で一時停止します。

NOTE

- ・再生中でも、パートごとの再生オン/オフを切り替えられます。
- ・別の曲を選ぶと、自動的に両パートとも再生オンにリセットされません。

繰り返し再生する

1曲内のある範囲を指定して繰り返し再生することができます。難しいフレーズを繰り返し練習するときなどに便利です。



1. 曲の再生をスタートさせ、繰り返しの始まり(A点)と終わり(B点)を指定する

選曲し(24ページ)、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで、[テンポ/ファンクション]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押します。

画面に **A -** と表示され、始まり(A点)が設定されます。

続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度[テンポ/ファンクション]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押します。

画面に **A - b** と表示され、終わり(B点)が設定されます。

同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。

曲の先頭をA点に設定したいときは再生をスタートする前に、[テンポ/ファンクション]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押します。

曲の終わりをB点に設定したいときはA点を設定したあとで曲の終わりまで再生すると、曲の終わりが自動的にB点に設定されます。

B点からA点に戻るとき
繰り返し再生でB点に到達すると、タイミングをとるためにタクト音が鳴ってからA点に戻り、再生を続けます。

2. 再生をストップする

[ストップ]ボタンを押すと、A点、B点の設定を保ったまま再生がストップします。

[スタート/一時停止]ボタンを押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。

A点、B点の設定を解除するには

もう一度[テンポ/ファンクション]ボタンを押したまま[スタート/一時停止]ボタンを押すと、A点/B点の設定は解除されます。また、別の曲を選ぶことでも設定は解除できます。

演奏を録音(記録)する

この楽器の録音機能を使って、ご自身の演奏を録音してみましょう。

この楽器では、録音した演奏を、SMFフォーマット0 (23ページ)として楽器本体(内部メモリー)またはUSB記憶装置に保存します。パートを指定して録音できるので、右手と左手を個別に録音したり、連弾曲を1パートずつ録音したりして、1曲を完成させることができます。

録音できる曲数は、楽器本体には10曲まで(合計約1.5MBまで)、USB記憶装置には最大100曲までです。どちらの場合も、1曲あたりは約550KBまでです

USB記憶装置に録音した曲ファイルについては、「USB記憶装置内の曲ファイル」(33ページ)をご参照ください。

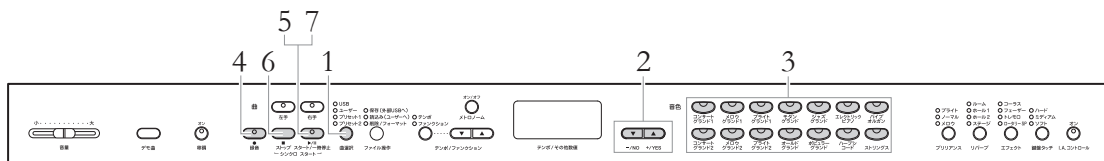
この楽器の録音機能(MIDI録音)

音そのものを録音するオーディオ録音とは異なり、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを録音(記録)します。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報を記録します。録音データの再生時は、記録した演奏情報にもとづいて、この楽器の「音源部」が鳴ります。

USB記憶装置に録音したい場合は、「USB記憶装置を接続する」(40ページ)を読み、USB記憶装置を [USB TO DEVICE] 端子に接続してから下記手順に従ってください。

パートを指定せずに録音する

録音パートを指定せずに手軽に録音する方法です。この方法では、自動的に[右手]パートに録音されます。



1. 録音データの保存先(ドライブ)を選ぶ

[曲選択]ボタンを押して、録音データを保存したいドライブのランプを点灯させます。

- ・プリセット1、2.....このドライブには録音できないので、選択できません。
- ・ユーザー.....楽器本体(内部メモリー)に保存します。
- ・USB.....接続したUSB記憶装置に保存します。

NOTE

- 以下の状態のときは、録音モードに入れません。
- ・デモ曲モード(20ページ)
- ・曲の再生中/一時停止中(24ページ)
- ・ファイル操作モード(33ページ)

NOTE

以下の場合には、「ユーザー」ドライブの、データが入っていない(空いている)曲番号に自動的に保存されます。

手順1で、

- ・ドライブを選択しなかった場合
- ・「プリセット1、2」ドライブを選んだ場合

手順2で、

- ・外部の曲(曲番号：001~XXX)を選んだ場合

また、「ユーザー」ドライブに空いている曲番号がない場合は、「U.01」のデータが削除され、新しく録音したデータが「U.01」に保存されます。

2. 録音データの曲番号を選ぶ

[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、曲番号を選びます。

- ・ ユーザー.....U.01～U.10
- ・ USB.....U.00～U.99

注記

選んだ曲番号に録音済みのデータがある場合は、[右手][左手]ボタンの片方または両方のランプが緑に点灯します。録音するとそれまでの録音データは消えますのでご注意ください。

3. 録音に使う音色や、拍子などの設定を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(拍子やエフェクトなど)もここで選んでください。

4. 録音モードに入る

[録音]ボタンを押します。

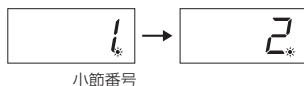
[録音]と[右手]のランプが点滅します。また、[スタート/一時停止]のランプがテンポに合わせて点滅します。

録音を中止する場合は、[録音]または[ストップ]ボタンを押します。

5. 録音をスタートする

鍵盤を弾くと同時に録音がスタートします。最初の音の前に空白を録音したいときは(弱起の曲など)、[スタート/一時停止]ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音中、画面には録音中の小節番号が表示されます。



6. 録音をストップする

[ストップ]または[録音]ボタンを押します。

録音をストップすると、「-」が流れて表示され保存中であることを示します。保存が終わ

ると、「^{エンド}End」が表示されたあと、曲番号が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れて表示されているときに電源を切ったり、USB記憶装置を抜いたりしないでください。外部の曲を含むすべての曲データ(23ページ)が消去されるおそれがあります。

7. 録音した演奏を再生する

[スタート/一時停止]ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。再生をストップするには、[ストップ]ボタンを押します。

パートボタンのランプ

消灯: データなし
点灯(緑): データあり
点滅(赤): 録音指定

メトロノームを使う

メトロノームを使いながら録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。

NOTE

選んだ曲番号に録音済みのデータがある場合は、拍子の変更ができません。拍子を変更して録音したい場合には、録音済みのデータを削除(31ページ)してから、録音を始めてください。

ドライブの空き容量が少ない場合

本体内部メモリーやUSB記憶装置の空き容量が少ない場合は、[録音]ボタンを押したあとに「Enp」と表示されます。この場合、録音はスタートできませんが、録音途中で記憶容量がいっぱいになるおそれがあります。あらかじめ不要なファイルを削除(31、36ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします。

弱起の曲とは

小節の途中から始まる曲

パートを指定して録音する

1. 録音の準備をする

「パートを指定せずに録音する」(28ページ)の手順1~3をご参照ください。
選んだ曲番号に録音済みのパートがある場合は、そのパートを再生させながらもう一方のパートを録音できます。録音済みのパートの再生をオフにするには、そのパートのボタンを押して緑色のランプを消灯させておきます。

パートボタンのランプ

消灯: データなし
点灯(緑): データあり
点滅(赤): 録音指定

2. 録音モードに入る

[録音]ボタンを押します。

ドライブの空き容量が少ない場合
本体内部メモリーやUSB記憶装置の
空き容量が少ない場合は、[録音]ボ
タンを押したあとに「[Enp]」と表示
されます。この場合、録音はスター
トできますが、録音途中で記憶容量
がいっぱいになるおそれがありま
す。あらかじめ不要なファイルを削
除(31、36ページ)して、空き容量
を確保することをおすすめします。

3. 録音パートを選ぶ

[右手]または[左手]ボタンを押して、録音したいパートのランプを点滅させます。

録音を中止する場合は、[録音]または[ストップ]ボタンを押します。

注記

録音済みのデータがあるパートのランプは緑に点灯しています。そのパートを選ぶと、そのパートのそれまでの録音データは消えますのでご注意ください。

4. 録音をスタートする

鍵盤を弾くと同時に録音がスタートします。最初の音の前に空白を録音したいときは(演奏を始める小節がパートによって異なる曲や、弱起の曲など)、[スタート/一時停止]ボタンを押して録音をスタートさせます。

録音済みのパートがある曲番号に録音する場合にも、[スタート/一時停止]ボタンを押して録音をスタートさせます。

弱起の曲とは

小節の途中から始まる曲

5. 録音をストップする

[ストップ]または[録音]ボタンを押します。

録音をストップすると、「-」が流れて表示され保存中であることを示します。終わると、「End」が表示されたあと、曲番号が表示されます。録音したパートのランプが緑に点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れて表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部の曲(23ページ)を含むすべての曲データが消去されるおそれがあります。

6. 録音した演奏を再生する

[スタート/一時停止]ボタンを押すと、今録音した演奏が再生されます。再生をストップするには、[ストップ]ボタンを押します。

録音した演奏を削除する

録音したユーザー曲をパートごとに削除します。両パートとも削除するには、以下の手順を各パートで行ないます。USB記憶装置に録音したユーザー曲は、36ページの方法で両パートをまとめて削除することもできます。

1. 録音データを削除するユーザー曲を選ぶ

[パートを指定せずに録音する] (28ページ)の手順1~2をご参照ください。

2. 録音モードに入る

[録音]ボタンを押します。

3. 削除するパートを選ぶ

[右手]または[左手]ボタンを押して、削除したいデータの入ったパートのランプを点滅させます。

4. 録音データを削除する

[スタート/一時停止]ボタンを押します。その後、何もせずに[ストップ]ボタンを押すと、指定したパートの録音データが削除され、ランプが消灯します。

必要に応じて、もう一方のパートも同じ方法で削除します。

NOTE

両方のパートの録音データを削除すると、メトロノームの拍子やテンポが初期設定に戻ります。引き続き同じ拍子/テンポで録音したい場合は、設定し直してください。

録音後に音色やテンポなどを変更する

録音を終えたあとも、演奏データの設定を変更できます。たとえば、音色を変更して違った雰囲気になったり、適切なテンポに調節できます。

録音(記録)されるデータの種類

録音では、下記のデータが記録されます。

パートごとに録音されるデータ

- ・ノートデータ(弾いた音)
- ・音色
- ・ペダル操作(ダンパー、ソフト、ソステヌート)
- ・[リバーブ]のかかり具合
- ・[エフェクト]のかかり具合
- ・デュアルの音色
- ・デュアル音量バランス
- ・デュアルデチューン
- ・デュアルオクターブシフト

2つのパートで共通に録音されるデータ

- ・テンポ
- ・拍子
- ・[リバーブ]の種類(オフも含む)
- ・[エフェクト]の種類(オフも含む)
- ・音律
- ・ダンパーレゾナンスのかかり具合
- ・ソフトペダル効果のかかり具合

NOTE

ノートデータ、ペダル操作、デュアルオクターブシフト、および拍子は録音後に変更できません。

1. 設定を変更するユーザー曲を選ぶ

「パートを指定せずに録音する」(28ページ)の手順1~2をご参照ください。

2. 変更する内容(音色やリバーブなど)を設定する

たとえば、録音したコンサートグランド1の音色をコンサートグランド2に変更したい場合は、ここで[コンサートグランド2]ボタンを押します。

3. 録音モードに入り、設定を変更するパートを選ぶ

[録音]ボタンを押したあと、[右手]ボタンまたは[左手]ボタンを押します。
(2つのパートで共通に録音されるデータはどちらのパートを選んでも変更されます。)
指定したパートのランプが赤く点滅します。

変更を中止する場合は、[録音]または[ストップ]ボタンを押します。

注記

ここで鍵盤や[スタート/一時停止]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートし、録音済みのデータが消えてしまいます。

4. 変更を保存する

[録音]ボタンを押したまま[ストップ]ボタンを押します。「-」が流れて表示され保存中であることを示します。保存が終わると、「^{エンド}End」が表示されたあと、曲番号が表示されます。録音モードは自動的に解除されます。

注記

「-」が流れて表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部の曲を含むすべての曲データ(23ページ)が消去されるおそれがあります。

曲ファイル进行操作する

ファイル操作モードでは、USB記憶装置を接続して、以下のような曲ファイルに関する操作ができます。USB記憶装置をご使用になる前に「USB記憶装置を接続する」(40ページ)をご覧ください。

	機能	ページ
保存(外部USBへ)	この楽器に録音したユーザー曲を、USB記憶装置に保存(コピー)する この楽器に録音した曲を、1曲ずつUSB記憶装置にコピーします。 最大100曲(U.00~U.99)まで保存できます。	34
読み込み(ユーザーへ)	USB記憶装置に録音したユーザー曲を、楽器に読み込む USB記憶装置に録音した曲を、1曲ずつ楽器に読み込みます。 10曲(U.01~U.10)まで読み込みます。	35
削除/フォーマット	USB記憶装置に録音したユーザー曲を削除する USB記憶装置に録音した曲を、1曲ずつ削除します。	36
	USB記憶装置をフォーマット(初期化)する [USB TO DEVICE]端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージ「UnF」が表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください。	37

NOTE

以下の状態のときは、ファイル操作はできません。
 ・デモ曲モード(20ページ)
 ・曲の再生中/一時停止中(24ページ)
 ・ファイル操作モード(33ページ)

注記

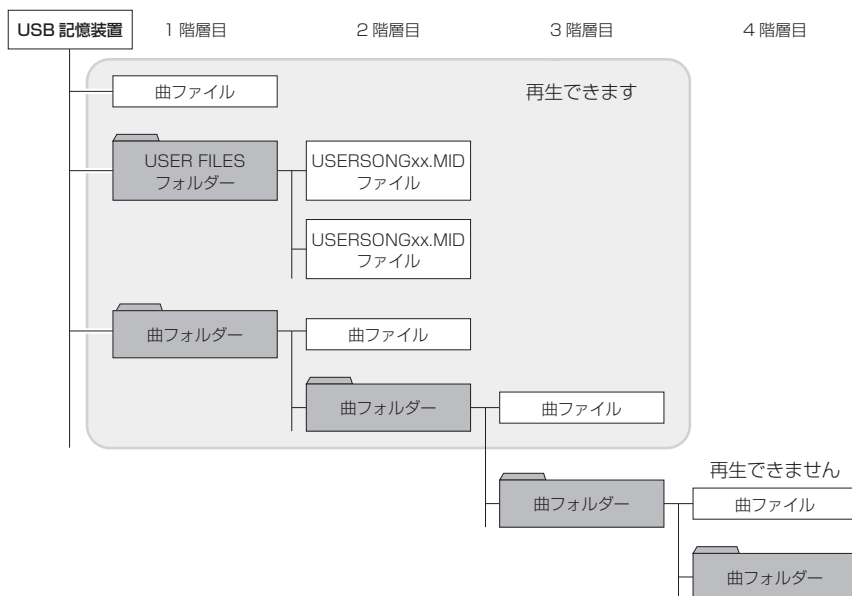
ファイル操作中や「-」が流れて表示されているときは、楽器の電源を切ったり、USB記憶装置を外したりしないでください。USB記憶装置や楽器本体のデータが壊れるおそれがあります。

USB記憶装置内の曲ファイル

この楽器で録音した曲を「ユーザー曲」といい、この楽器以外で作られた曲は「外部の曲」といいます。

ユーザー曲は、USB記憶装置内の「USER FILES」フォルダーにSMF形式(23ページ)で録音/保存され、自動的に「USERSONGxx.MID」(xxは数字)というファイル名が付けられます。外部の曲は「USER FILES」フォルダーの外に保存されます。ただし、ユーザー曲は、コンピュータを使用して、フォルダー名を変更したり、「USER FILES」フォルダーの外へ移動したりすると、外部の曲として扱われます。

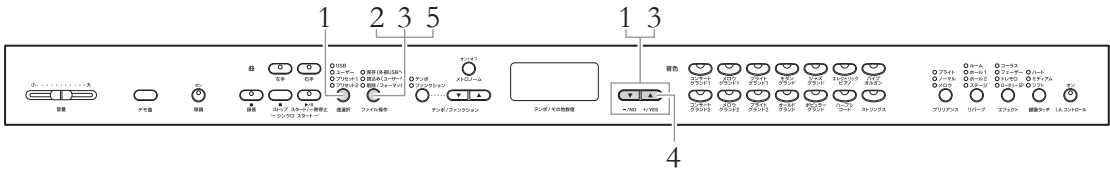
コンピュータなどでUSB記憶装置内の曲ファイルを管理する場合、外部の曲のファイルは3階層までに保存してください。これより下の階層のフォルダーに保存された曲は、この楽器では選択/再生できません。



NOTE

ひとつのフォルダーに保存できるファイル/フォルダーの数は999までです。

この楽器に録音したユーザー曲を、USB記憶装置に保存(コピー)する



1. コピーするユーザー曲を選ぶ

[曲選択]ボタンを押して「ユーザー」のランプを点灯させてから、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押してコピーするユーザー曲を選びます。

2. ファイル操作モードに入る

[ファイル操作]ボタンを押して「保存(外部USBへ)」のランプを点灯させます。

3. コピー後のデータの保存先(曲番号)を選ぶ

[ファイル操作]ボタンを押したまま、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して保存先となる「USB」ドライブ内の曲番号(U.00-U.99)を選びます。すでにデータが録音されている曲番号を選ぶと、「U.x.x」のように、画面に点(.)が3つ表示されます。上書きする場合は、手順4に進みます。上書きしない場合は、ほかの曲番号を選んでから手順4に進みます。

4. 曲をコピーする

[ファイル操作]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。上書きする場合は、このあとに「n'y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

コピーが終わると、「^{エンド}End」が表示されたあと、「- - -」の表示に戻ります。

コピーを中止する場合は、「n y」または「n'y」が表示されたときに、[-/NO]ボタンを押します。

注記

「-」が流れて表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

5. ファイル操作モードを抜ける

[ファイル操作]ボタンを何回か押して、ランプを消灯させます。

プロテクトがかかった曲

プロテクトがかかった曲やプリセット曲は、USB記憶装置にコピーできません。コピーしようとすると「Pro」が表示されます。

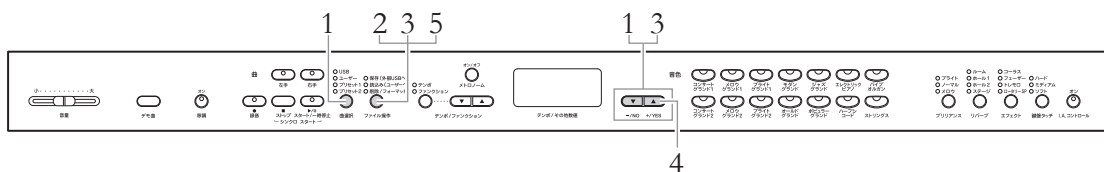
NOTE

手順1でユーザー曲が選ばれていない場合は、手順3で[ファイル操作]ボタンを押すと「_ _ _」が点滅します。手順1に戻ってユーザー曲を選んでください。

USB記憶装置の空き容量が不十分な場合

コピーした曲を保存できません。不要なファイルを削除(36ページ)するなどして、空き容量を確保してください。

USB記憶装置に録音したユーザー曲を、楽器に読み込む



1. 読み込むユーザー曲を選ぶ

[曲選択]ボタンを押して「USB」ドライブのランプを点灯させてから、[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して読み込むユーザー曲を選びます。

2. ファイル操作モードに入る

[ファイル操作]ボタンを押して「読み込み(ユーザーへ)」のランプを点灯させます。

3. 読み込んだ後のデータの保存先(曲番号)を選ぶ

[ファイル操作]ボタンを押したまま[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、保存先となる「ユーザー」ドライブ内の曲番号(U.00~U.10)を選びます。

すでにデータが保存されている曲番号を選ぶと、「U.x.x.」のように、画面に点(.)が3つ表示されます。上書きする場合は、手順4に進みます。上書きしない場合は、ほかの曲番号を選んでから手順4に進みます。

4. 曲を読み込む

[ファイル操作]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。上書きする場合は、このあとに「n'y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

読み込みが終わると、「End」が表示されたあと、「- - -」の表示に戻ります。

読み込みを中止する場合は、「n y」または「n'y」が表示されたときに、[-/NO]ボタンを押します。

注記

「-」が流れて表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

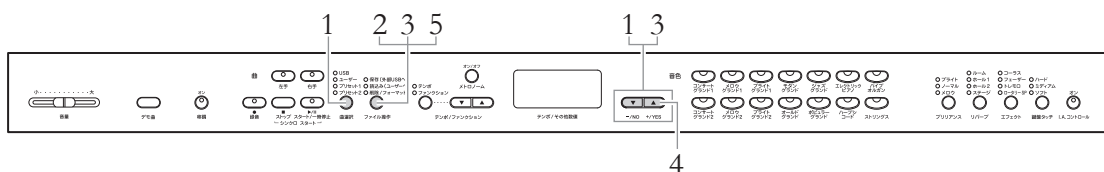
5. ファイル操作モードを抜ける

[ファイル操作]ボタンを何回か押して、ランプを消灯させます。

NOTE

手順1でユーザー曲が選ばれていない場合は、[ファイル操作]ボタンを押すと「_ _ _」が点滅します。手順1に戻ってユーザー曲を選んでください。

USB記憶装置に録音したユーザー曲を削除する



1. 「USB」ドライブを選ぶ

[曲選択]ボタンを押して、「USB」ドライブのランプを点灯させます。

2. ファイル操作モードに入る

[ファイル操作]ボタンを押して「削除/フォーマット」のランプを点灯させます。

3. 削除するユーザー曲を選ぶ

[ファイル操作]ボタンを押したまま[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、削除する曲番号を選びます。曲データが入っている番号だけが表示されます。USB記憶装置内に削除できる曲データがない場合は「_ _ _」が点滅します。

4. 曲を削除する

[ファイル操作]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。確認のため、「n y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。削除が終わると、「End」が表示されたあと、「- - -」の表示に戻ります。削除を中止する場合は、「n y」または「n y」が表示されたときに、[-/NO]ボタンを押します。

注記

「-」が流れて表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

5. ファイル操作モードを抜ける

[ファイル操作]ボタンを押して、ランプを消灯させます。

NOTE

ファイル操作モードでは、曲の再生ができません。削除したい曲の確認再生は、手順2へ進む前に済ませてください。

NOTE

ユーザー曲(U.xx)を削除しても、曲番号は変化せず、削除した曲の番号はデータが空の状態になります。

USB記憶装置をフォーマット(初期化)する



注記

フォーマットを実行するとUSB記憶装置に保存されているデータがすべて消去されます。大切なデータはコンピューターなど、ほかの記憶装置に保存しておいてください。

1. ファイル操作モードに入る

[ファイル操作]ボタンを押して「削除/フォーマット」のランプを点灯させます。

[ファイル操作]ボタンを押したまま[-/NO]と[+/YES]ボタンを同時に押して、「For」を表示させます。

2. フォーマットを実行する

[ファイル操作]ボタンを離すと「n y」(no/yes)が表示されるので、[+/YES]ボタンを押します。確認のため、「n̄ y」が表示されるので、もう一度[+/YES]ボタンを押します。

フォーマットが終わると、「^{エンド}」が表示されたあと、「- - -」の表示に戻ります。

フォーマットを中止する場合は、「n y」または「n̄ y」が表示されたときに、[-/NO]ボタンを押します。

注記

[-]が流れて表示されているときは、電源を切ったり、USB記憶装置を取り外したりしないでください。

3. ファイル操作モードを抜ける

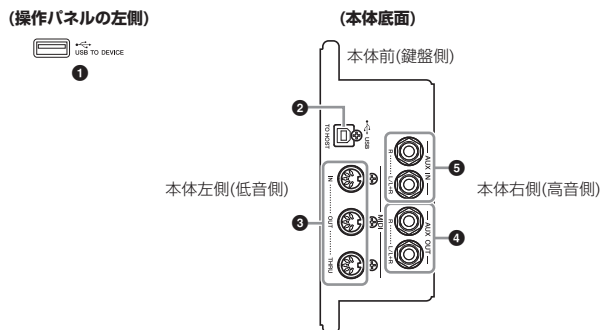
[ファイル操作]ボタンを押して、ランプを消灯させます。

他の機器と接続する

端子について

⚠ 注意 外部のオーディオ機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感音または機器の損傷のおそれがあります。

端子の位置は「各部の名前と機能」(11ページ)でご確認ください。



- ① [USB TO DEVICE]端子**
トウー デバイス
USB記憶装置を接続する端子です。詳しくは40ページの「USB記憶装置を接続する」をご覧ください。
- ② USB [TO HOST]端子**
トウー ホスト
コンピューターを接続する端子です。詳しくは41ページの「コンピューターと接続する」をご覧ください。
- ③ MIDI [IN][OUT][THRU]端子**
ミディ イン アウト スルー
MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続する端子です。詳しくは42ページの「外部MIDI機器と接続する」をご覧ください。

2種類のUSB端子
楽器本体のUSB端子には、[USB TO DEVICE]端子とUSB [TO HOST]端子の2種類があります。どちらもUSB端子ですが、形状/用途が違いますので、接続するときに間違えないようご注意ください。

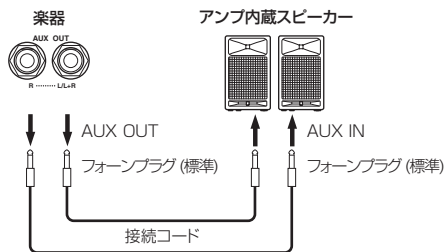
エーユーエックス アウト

4 AUX OUT [L/L+R][R]端子

この楽器にアンプ内蔵スピーカーなどの外部オーディオ機器を接続して、より大きな音を出します。AUX OUT に出力される音量は、楽器本体の[音量]スライダーで調節します。外部スピーカー使用時、本体スピーカーからの音を消したい場合は、スピーカースイッチをOFFにしてください(14ページ)。

注記

電源を入れるときは楽器→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→楽器の順に行なってください。



本体スピーカーやヘッドフォンから出力される音の音質は、AUX OUT端子への外部機器の接続状況に応じて適切な設定に、自動的に切り替わります(下表参照)。

本体出力音の音質

□ 本体スピーカーが鳴る
■ 本体スピーカーは鳴らない

	AUX OUT端子にプラグを未接続			AUX OUT端子にプラグを接続中		
	SPEAKER=ON	SPEAKER=NORMAL	SPEAKER=OFF	SPEAKER=ON	SPEAKER=NORMAL	SPEAKER=OFF
ヘッドフォン 接続中	本体スピーカーに 最適なイコライザー*	フラット	フラット	フラット*	フラット	フラット
ヘッドフォン 未接続	本体スピーカーに 最適なイコライザー	本体スピーカーに 最適なイコライザー	フラット	フラット*	フラット*	フラット

*ヘッドフォン、AUX OUTの出力レベルが抑えられます。

NOTE

接続ケーブルおよび接続プラグは抵抗のないものをお使いください。

NOTE

この楽器のAUX OUTから出力した音を、この楽器のAUX INに戻さないでください(AUX OUTからアンプ内蔵スピーカーなどの外部機器に接続した場合、そのスピーカーからふたたびこの楽器のAUX INに接続しないでください)。

NOTE

本体音をモノラル信号で取り出すときは、AUX OUT[L/L+R]端子を使ってください。

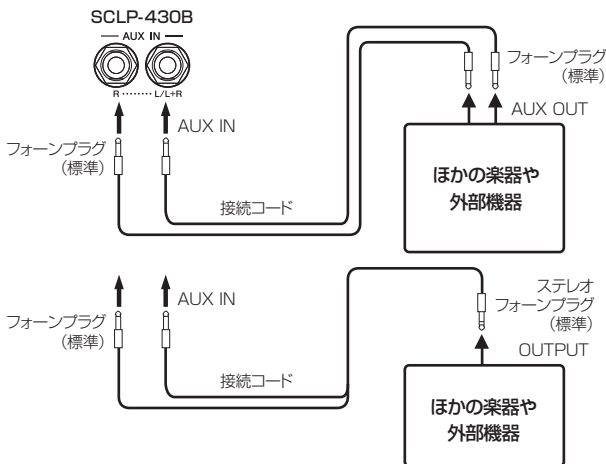
エーユーエックス イン

5 AUX IN [L/L+R][R]端子

ほかの楽器や外部機器の音をこの楽器のスピーカーから出します。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

注記

この楽器のAUX INを使う場合、電源を入れるときは外部機器→この楽器の順に、電源を切るときは、この楽器→外部機器の順に行なってください。



NOTE

AUX INからの入力音にはこの楽器の[音量]は効きませんが、[プリリアンス]、[リバーブ]、[エフェクト]は効きません。

NOTE

モノラル信号を入力するときはAUX IN[L/L+R]をご使用ください。

USB記憶装置を接続する

[USB TO DEVICE]端子にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で録音したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

[USB TO DEVICE]端子で使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書をご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

USB対応の記憶装置(フラッシュメモリー、ハードディスクドライブなど)

動作確認済みUSB機器については、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

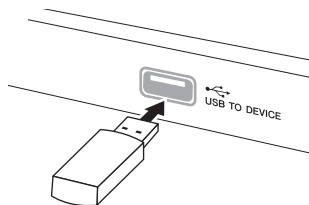
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/support/usb/>

NOTE

上記以外のUSB機器(マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



- USBケーブルで接続する場合、3メートル以下のケーブルをご使用ください。
- 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

注記

トップパネルの[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続している場合は、キーカバーを閉める前に外してください。USB機器を接続したままキーカバーを閉じると、USB機器がキーカバーに当たって破損するおそれがあります。

USB記憶装置の取り扱いについて

本機にUSB記憶装置を接続すると、楽器本体で制作したデータをUSB記憶装置に保存したり、USB記憶装置のデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSB記憶装置の数

同時に使用できるUSB記憶装置は、1台だけです。

■ USB記憶装置のフォーマット

USB記憶装置の中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。[USB TO DEVICE]端子にUSB記憶装置を接続したとき(またはUSB記憶装置にメディアを挿入したとき)に、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください(37ページ)。

注記

フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USB記憶装置には、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSB記憶装置のライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USB記憶装置の抜き差し

USB記憶装置を外すときは、保存/コピー/削除/フォーマットなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

注記

USB記憶装置の頻繁な電源のオン/オフや抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。保存/コピー/削除/フォーマットなどデータのアクセス中やUSB記憶装置のマウント中は、USBケーブルを抜いたり、USB記憶装置からメディアを取り出したり(USBフラッシュメモリーを抜いたり)、双方の電源を切ったりしないでください。メディアが壊れたり、楽器本体/メディアのデータが壊れたりするおそれがあります。

コンピューターと接続する

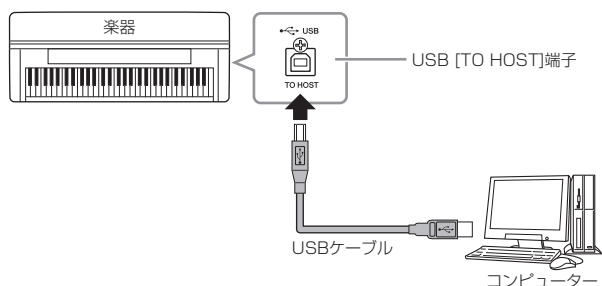
USBケーブルを使ってこの楽器のUSB ^{トウ} ^{ホスト} [TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとデータをやりとりしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。この楽器の「ユーザー」ドライブへは、外部の曲として999曲(001~999)まで読み込めます。再生方法については、23ページをご参照ください。

1. USBケーブルを接続する前に、楽器の電源を切る

2. コンピューターを起動させる

コンピューター上のアプリケーションは、起動させないでください。

3. 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続する



4. 楽器の電源を入れる

お使いのコンピューターにUSB-MIDIドライバーが自動でインストールされます。
対応OS：Windows XP (SP3以降)、Windows Vista、Windows 7、Mac OS X Version 10.5 ~ 10.6.x

通常はこの状態で通信できますが、動作が不安定だったり、不具合が発生したりする場合は、ヤマハ標準のUSB-MIDIドライバーを下記のURLからインストールしてお使いください。インストール方法は、ダウンロードファイルに付属されているインストールガイドを参照してください。

http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

ヤマハ標準のUSB-MIDIドライバーの対応OSについては、上記URLでご確認ください。

USB [TO HOST]端子ご使用時の注意

USB [TO HOST]端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止(ハングアップ)して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れ直してください。

注記

- ・ USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル以下のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- ・ USB [TO HOST]端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力(サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止)モードを解除してください。
- ・ 本体の電源を入れる前に、USB [TO HOST]端子とコンピューターを接続してください。
- ・ 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したり曲を再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
- ・ 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

NOTE

楽器のMIDI [IN]/[OUT]端子を使ってコンピューターと接続することもできます。この場合は、USBケーブルの代わりにヤマハUX16などのMIDIインターフェースを使用します。接続方法については、MIDIインターフェースの取扱説明書をご覧ください。

NOTE

楽器がコンピューターとUSB接続されているときは、MIDI端子は使用できません。

NOTE

使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

コンピューターから MIDI 曲のデータを楽器に読み込む

ヤマハのソフトウェア「ミュージックソフトダウンローダー」を使えば、コンピューター内の MIDI 曲のデータを楽器に読み込むことができます。コンピューターから曲データを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

楽器に読み込めるデータ

- ・データフォーマット: SMFフォーマット0、フォーマット1
- ・データ容量: 合計約1.5MB

ミュージックソフトダウンローダーは、下記URLからダウンロードできます(無料)。
<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

NOTE

SMFフォーマット0や1のデータでも、この楽器が対応しないデータを含む場合は、データどおりに再生できません。

外部MIDI機器と接続する

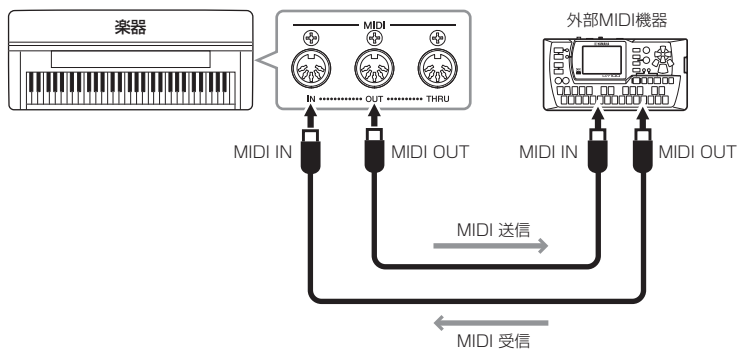
MIDIケーブルを使って、この楽器と外部MIDI機器(キーボード、シンセサイザー、シーケンサーなど)のMIDI端子を接続すると、この楽器から外部MIDI機器をコントロールしたり、外部MIDI機器からこの楽器をコントロールしたりできます。

注意 外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。

MIDI [IN] MIDIデータを受信する端子です。

MIDI [OUT] MIDIデータを送信する端子です。

MIDI [THRU] MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。複数の機器にMIDIデータを供給する場合などに使います。



NOTE

MIDIについては、PDFマニュアル「MIDI入門」で詳しく説明しています。

NOTE

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータだけが送受信できることになります。この楽器で扱えるMIDIデータについては、PDFマニュアル「MIDIリファレンス」をご覧ください。

詳細設定編

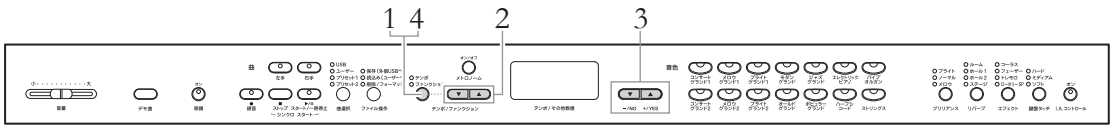
各種の便利な設定をする(ファンクション)

音の高さの微調整やメトロノームの音量設定など、いろいろ便利な設定ができます。それらをまとめて「ファンクション(=機能)」と呼んでいます。

ファンクション一覧

ファンクション		ファンクション番号	ページ
音の高さの微調整(チューニング)		F1.	45
音律(調律法)の設定	音律(調律法)の種類の設定	F2.1	45
	基音の設定	F2.2	45
デュアルの設定	2音色の音量バランスの設定	F3.1	46
	2音色の音の高さを微妙にずらす設定	F3.2	46
	第1音色のオクターブシフトの設定	F3.3	46
	第2音色のオクターブシフトの設定	F3.4	46
	第1音色のエフェクトのかかり具合の設定	F3.5	46
	第2音色のエフェクトのかかり具合の設定	F3.6	46
	初期設定に戻す操作	F3.7	46
ペダルや音響の設定	[スタート/一時停止]機能のペダルへの割り当て	F4.1	46
	ハーフペダルポイントの設定	F4.2	46
	ダンパーペダル使用時の共鳴効果(ダンパーレゾナンス)のかかり具合の設定	F4.3	46
	ソフトペダル効果のかかり具合の設定	F4.4	47
曲の再生チャンネル選択		F4.5	47
メトロノーム音量の設定		F5	47
MIDI機能の設定	MIDI送信チャンネルの設定	F6.1	47
	MIDI受信チャンネルの設定	F6.2	47
	ローカルコントロールオン/オフの設定	F6.3	48
	プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	F6.4	48
	コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	F6.5	48
	イニシャルセットアップ送信	F6.6	48
バックアップオン/オフの設定	音色関連項目のバックアップ設定	F7.1	49
	MIDI関連項目のバックアップ設定	F7.2	49
	音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定	F7.3	49
	その他の項目のバックアップ設定	F7.4	49
文字種の切り替え		F7.5	49
バックアップデータの保存/読み込み	バックアップデータの保存	F7.6	50
	バックアップデータの読み込み	F7.7	50

ファンクションでの基本操作



1. ファンクションモードに入る

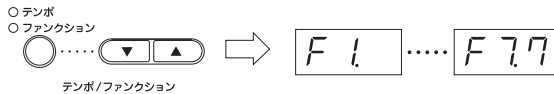
[テンポ/ファンクション]ボタンを押して、「ファンクション」のランプを点灯させます。
ファンクションモードの画面 **F * *** になります。(* . * のところは、そのときの使用状態によって異なる表示になります。)

NOTE

以下の状態のときは、ファンクションモードに入れません。
 ・デモ曲モード(19ページ)
 ・曲の再生中/一時停止中(24ページ)
 ・録音モード(28ページ)
 ・ファイル操作モード(33ページ)

2. ファンクション番号を選ぶ

[テンポ/ファンクション ▼▲]ボタンでファンクション番号を選びます(**F 1** ~ **F 77**)。



3. 設定する

[-/NO]/[+/YES]ボタンを押して、選択されたファンクションの設定をします。
 [-/NO]と[+/YES]を同時に押すと該当ファンクションの初期設定に戻ります。
 引き続きほかのファンクションを設定したい場合は、手順2に戻ります。

NOTE

ファンクション番号を選んだあと、最初に[-/NO]または[+/YES]ボタンを押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。



4. ファンクションモードを抜ける

[テンポ/ファンクション]ボタンを押して、ファンクションモードを抜けます。

各ファンクション項目の説明

音の高さの微調整(チューニング)

[F1]

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

[-/NO]/[+/YES]ボタンで、A3の鍵盤の音の高さを^{ヘルツ}Hzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

表示は10の位と1の位と小数点第一位で表示します。

例 440.2Hzのときの表示は 440.2 になります。

設定範囲: 427.0~453.0 (Hz)

初期設定: 440.0 (Hz)

Hz (ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共にさまざまな音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。当時の調律法で演奏することでその曲が誕生したときの響きを味わえます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

• 平均律 (Equal Temperament)

イコールテンペラメント

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

• 純正律 長調/短調 (Pure Temperament Major/Minor)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

• ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)

ピタゴリアン テンペラメント

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

• 中全音律 (Meantone Temperament)

ミントーン テンペラメント

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

• ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)/ キルンベルガー音律 (Kirnberger)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせかたが異なります。転調により曲想が変化するのが特徴です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハーブシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

音律(調律法)の種類の設定

[F2]

- 設定範囲: 1 平均律
2 純正律(長調)
3 純正律(短調)
4 ピタゴラス音律
5 中全音律
6 ヴェルクマイスター音律
7 キルンベルガー音律

初期設定: 1 平均律

基音の設定

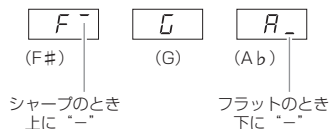
[F2.2]

平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。(平均律を選んでいても基音の設定はできませんが、平均律では意味を持ちません。他の音律を選んだときに意味を持つようになります。)

設定範囲: C, C#, D, E^b, E, F, F#, G, A^b, A, B^b, B

初期設定: C

基音表示の例



デュアルの設定

デュアルモードでの各種設定をします。2音色の音量バランスを調節したりなど、弾く曲に最適な設定を作ります。音色の組み合わせごとに設定します。

1. デュアルモードで音色を選んでから、ファンクションモードに入り、ファンクション番号を選びます。
2. [-/NO]/[+/YES]ボタンで、各種の設定をします。

ショートカット操作

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま[テンポ/ファンクション]ボタンを押して、**F31**を呼び出すこともできます。

2音色の音量バランスの設定

F31

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

設定範囲: 0~20 (20に近付くほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

初期設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音の高さを微妙にずらす設定

F32

2音色の音の高さを微妙にずらすと音に厚みが出ます。

設定範囲: -20~0~20 (+方向で第1音色の音の高さが高く、第2音色の音の高さが低くなる。
-方向で第2音色の音の高さが高く、第1音色の音の高さが低くなる。)

初期設定: 音色の組み合わせごと

NOTE

ずらすことができる音の幅は、低音域ほど大きく(A-1で±60セント)、高音域ほど小さく(C7で±5セント)なっています。(100セント=1半音)

第1音色のオクターブシフトの設定

F33

第2音色のオクターブシフトの設定

F34

音の高さを1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響きかたが違ってきます。

設定範囲: -1, 0, 1

初期設定: 音色の組み合わせごと

NOTE

「第1音色」「第2音色」については、22ページをご覧ください。

第1音色のエフェクトのかかり具合の設定

F35

第2音色のエフェクトのかかり具合の設定

F36

エフェクトのかかり具合を第1音色と第2音色を別々に設定します。

設定範囲: 0~20

初期設定: 音色の組み合わせごと

NOTE

「第1音色」「第2音色」については、22ページをご覧ください。

初期設定に戻す操作

F37

[+/YES]ボタンを押すと上記すべてのデュアルの設定が、その音色の組み合わせが持つ初期設定に戻ります。

ペダルや音響の設定

ペダルに[スタート/一時停止]機能を割り当てたり、ダンパーペダルの共鳴効果のかかり具合を設定します。

[スタート/一時停止]機能のペダルへの割り当て

F41

左のペダルかまん中のペダルをパネルの[スタート/一時停止]ボタンと同じ機能に切り替えることができます。[スタート/一時停止]機能を割り当てると、元の機能(ソフトまたはソステヌート)は無効になります。

設定範囲: OFF、1 (左のペダル)、2 (まん中のペダル)

初期設定: OFF

ハーフペダルポイントの設定

F42

ダンパーペダルをどのくらい踏み込めばハーフペダル効果がかかるかを設定します。

設定範囲: -2 (浅い位置で効く)~0~4 (深い位置で効く)

初期設定: 0

ダンパーペダル使用時の共鳴効果(ダンパーレゾナンス)のかかり具合の設定

F43

グランドピアノ音色で、ダンパーペダルを踏んだときに加わる、弦の共鳴効果のかかり具合を設定します。

設定範囲: 0~10

初期設定: 音色ごと

ソフトペダル効果のかかり具合の設定

F44

設定範囲: 1~10

初期設定: 5

曲の再生チャンネル選択

F45

[-/NO]/[+/YES]ボタンで、曲を再生させるチャンネルを選択します。

設定範囲: ^{オール}ALL、1-2

初期設定: ALL

「ALL」では、チャンネル1~16すべてが再生されます。
「1-2」では、チャンネル1と2だけが再生され、3~16チャンネルは接続した外部機器にMIDI送信されます。

音量の設定

メトロノームの音量の再生音量を設定します。

メトロノーム音量の設定

F5

設定範囲: 1~20

初期設定: 15

ショートカット操作

[メトロノーム]ボタンを押したまま[テンポ/ファンクション]ボタンを押すと、直接このファンクション番号を呼び出せます。

MIDI機能の設定

MIDIに関する各種設定/操作をします。
MIDIについての説明をPDFマニュアル「MIDI入門」でご覧いただけます。

ここでのMIDIに関する設定は、MIDI端子だけでなく、USB [TO HOST]端子での信号の入出力に対しても有効です。

MIDI送信チャンネルの設定

F61

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでこの楽器から外部機器へ手弾き音のMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16、OFF(送信しない)

初期設定: 1

デュアルのときの第2音色は

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)
ただし、上記設定チャンネルをオフに設定した場合は送信されません。

曲データは

MIDI送信されません。ただし、プロテクトがかかっていない曲は、MIDI曲の再生チャンネル選択(47ページ)で「1-2」を選んだ場合に、3~16チャンネルがMIDI送信されます。

MIDI受信チャンネルの設定

F62

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでこの楽器が外部機器からMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: ^{オール}ALL、1-2、1~16

初期設定: ALL

ALLの場合は

外部MIDI機器から送信されるすべてのチャンネルのデータを、同時に受信します。したがって、シーケンサーなどから送信される複数チャンネルの演奏データを、この楽器で再生できます。

「1-2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、この楽器で再生します。

NOTE

この楽器でパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などから影響を受けません。

NOTE

デモ曲モード中には、MIDI受信されません。

ローカルコントロールオン/オフの設定

F 6.3

この楽器の鍵盤演奏を内部の音源で鳴らすかどうかを設定します。通常、楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いても楽器本体からは音が出なくなりますが、演奏データはMIDI送信されます。鍵盤演奏を外部音源で鳴らしたいときは、ローカルコントロールをオフにします。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

F 6.4

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばこの楽器からプログラムチェンジを送信すると接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(楽器のパネルで音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆に接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジを受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)プログラムチェンジの送受信をしたい場合(外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)はオンに、送受信したくない場合(外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)はオフにします。

NOTE

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、PDFマニュアル「MIDIリファレンス」を参照してください。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

F 6.5

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばこの楽器からコントロールチェンジを送信すると接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(この楽器でダンパーペダルなどを操作したときにコントロールチェンジが送信されます。)逆に接続した外部機器からコントロールチェンジを受信すると、MIDIの演奏にコントロールチェンジの効果が付きます。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)コントロールチェンジの送受信をしたい場合はオンに、送受信したくない場合はオフにします。

NOTE

この楽器が扱えるコントロールチェンジ情報については、PDFマニュアル「MIDIリファレンス」を参照してください。

選択範囲: ON/OFF

初期設定: ON

イニシャルセットアップ送信

F 6.6

接続したシーケンサーなどの外部機器にイニシャルセットアップデータ(楽器のパネル設定状態のデータ)を送信します。演奏データを録音する前にイニシャルセットアップ送信をすると、演奏データの頭にセットアップデータを記録しておくことができます。また、音源モジュールにセットアップデータを送信すれば、音源モジュールを楽器と同様の設定にすることができます。

1. 送信するパネル設定を作ります。
2. シーケンサーなどを接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。
3. ファンクションモードに入って、ファンクション番号を選びます。
4. [+ / YES]ボタンを押すと送信が実行されます。

送信が終わると、**[End]** が表示されます。

以下のデータをイニシャルセットアップ送信できます。

- 音色
- リバープの種類とかかり具合
- エフェクトの種類とかかり具合
- 音律 **[F 2.1]**
- デュアル2音色のバランス **[F 3.1]**
- 2音色の音の高さを微妙にずらす設定の値 **[F 3.2]**
- ダンパーレゾナンスのかかり具合 **[F 4.3]**
- ソフトペダル効果のかかり具合 **[F 4.4]**

バックアップオン/オフの設定

バックアップとは、ご自身で設定した音色選択や、リバーブタイプなどの設定を、電源を切っても消さずに残しておくことです。

バックアップをオンにしておく、次回電源を入れたときにも前回の設定が有効になります。

バックアップをオフにしておく、電源をオフにした時点でメモリーの内容は消され、次回電源を入れたときには初期設定(56ページ)に戻ります。

ただし「本体内に録音された演奏データ」、「文字種の切り替え」、ここでの「バックアップオン/オフの設定」自体は常にバックアップされます。

注記

設定を保存するまでに、数秒かかります。設定変更後すぐに電源を切ると、設定が保存されないことがあります。

音色関連項目のバックアップ設定

F 71

設定範囲: ON/OFF

初期設定: OFF

バックアップ内容

- 音色選択
- デュアルモードのオン/オフと音色
- デュアルの諸設定 **F 31** ~ **F 36** (音色の組み合わせごと)
- リバーブの種類とかかり具合(音色ごと)
- エフェクトの種類とかかり具合(音色ごと)
- タッチ感度の設定(フィックス時の音量も含む)
- メトロノームの拍子と音量
音量は、**F 5**
- ダンパーレゾナンスのかかり具合 **F 43**

MIDI関連項目のバックアップ設定

F 72

設定範囲: ON/OFF

初期設定: ON

バックアップ内容

- MIDI機能の諸設定 **F 61** ~ **F 65**

音の高さ、音律関連項目のバックアップ設定

F 73

設定範囲: ON/OFF

初期設定: ON

バックアップ内容

- 移調の値
- 音の高さの微調整 **F 1**
- 音律(調律法)の種類と基音の設定 **F 21**、**F 22**

その他の項目のバックアップ設定

F 74

設定範囲: ON/OFF

初期設定: ON

バックアップ内容

- ペダルと音響の諸設定 **F 41**、**F 42**、**F 44**
- 曲の再生チャンネル **F 45**
- プリリアンスの設定
- I. A.コントロールのオン/オフとかかり具合

文字種の切り替え

F 75

この楽器で曲が読み込めない場合は、ファイル名の文字種に問題があることがあります。ここで文字種を切り替えてみてください。

設定範囲: Int (International)/JA (Japanese)

初期設定: JA

バックアップデータの保存/読み込み

本体の設定や本体に録音/保存したデータ(「ユーザー」ドライブ内の曲)の万一の事故に備えて、大切なデータをUSB記憶装置にバックアップとして保存できます。また、保存したデータを本体に読み込んで、元の設定に戻すこともできます。

1. USB記憶装置を接続します。
2. ファンクションモードに入り、ファンクション番号を選びます。
3. [+ / YES]ボタン押すと保存/読み込みが実行されます。(読み込みの場合は、[+ / YES]ボタンを2回押します。)保存/読み込みが終わると、**[End]**が表示されます。

注記

- 曲の再生中や曲ファイルの操作中(33ページ)などにバックアップデータの保存/読み込みを実行しないでください。データの破損の原因になります。
- バックアップデータの保存/読み込み中に電源を切らないでください。データ破損の原因になります。

バックアップデータの保存

[F76]

バックアップデータ(本体設定と「ユーザー」ドライブ内の曲)をUSB記憶装置に保存します。

バックアップファイル名

SCLP-430.bup

NOTE

保存が完了するまでに、1~2分かかることがあります。

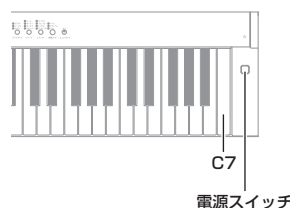
バックアップデータの読み込み

[F77]

USB記憶装置に保存したバックアップデータ(本体設定と「ユーザー」ドライブ内の曲)をこの楽器に読み込んで、元に戻します。読み込みが終わると、楽器が自動的に再起動します。

初期設定(工場出荷時の状態)に戻す

右端の白鍵(C7)を押したまま電源スイッチを押して電源を入れます。この操作をすると、本体に記憶されているバックアップデータ(ファンクションでのバックアップオン/オフの設定も含む)が消去され、初期設定に戻ります。楽器本体に保存したユーザー曲や外部の曲は消去されません。



注記

「CLR」が表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部の曲を含むすべての曲データ(23ページ)が消去されるおそれがあります。

初期設定とは

本書では、はじめて電源を入れたときの設定(工場出荷時の設定)のことを「初期設定」と呼んでいます。

付録

メッセージ一覧

メッセージ	内容
CLr	楽器を初期設定(初めて電源を入れたときの設定)に戻しています。 注記 「CLr」が表示されているときに電源を切らないでください。電源を切ると、外部の曲を含むすべての曲データ(23ページ)が消去されるおそれがあります。
con	楽器をコンピューターと接続してミュージックソフトダウンローダーを使用しています。このメッセージが表示されているときは、楽器の操作ができません。
EO1	文字種の設定(49ページ)が、選択しようとしている曲のファイル名に合っていない。文字種を切り替えてください。
	この楽器では対応していないデータ形式です。または、データに問題があるため選択できません。
	USB記憶装置が見つかりません。または、USB記憶装置に異常が発生しました。USB記憶装置を接続し直してから、操作を実行してください。ほかに問題がないのに、このメッセージが繰り返し表示される場合は、USB記憶装置が壊れている可能性があります。
	バックアップデータの読み込みができません。バックアップデータがありません。または壊れています。
EO2	USB記憶装置にプロテクトがかかっています。
EO3	USB記憶装置のメモリーの空き容量が不足しています。またはファイルやフォルダーの数が制限を超えました。
EEE	本体に異常が発生しました。巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。
End	処理が終わりました。
Enp	楽器本体またはUSB記憶装置のメモリーの空き容量が少なくなりました。録音を始める前に不要なファイルを削除(36ページ)して、空き容量を確保することをおすすめします
FCL	処理中に電源を切ったので、楽器本体のメモリーが初期化されました。本体設定や本体に録音/保存した曲(「ユーザー」ドライブ内の曲)のデータが消去されています。 注記 「FCL」が表示されているときに電源を切らないでください。
For	USB記憶装置のフォーマットモードに入ります。
FUL	楽器本体またはUSB記憶装置のメモリーの空き容量が不足しているため、データの処理ができませんでした。録音中にこのメッセージが表示されたときは、演奏データが正しく保存されない場合があります。
n y	操作を実行しますか？
n`y	データの上書きや削除、またはUSB記憶装置のフォーマットを実行しますか？
Pro	プロテクトがかかった曲、または読み取り専用のファイルです。データの削除や上書きはできません。読み取り専用のファイルは、コンピューターで読み取り専用を解除してからお使いください。
UnF	フォーマットされていないUSB記憶装置が接続されています。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください(37ページ)。
Uoc	USB機器に過電流が流れたため、USB機器との通信を停止しました。USB機器を[USB TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
UU1	USB機器と通信できません。USB機器を接続し直してください。正しく接続してもこのメッセージが表示される場合は、USB機器が壊れている可能性があります。
UU2	このUSB機器は、この楽器では使えません。または、接続できるUSB機器の数が制限を超えました。「USB記憶装置を接続する」(40ページ)をご参照ください。

メッセージを消すには、[一/NO]ボタンを押してください。

困ったときは

画面にメッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(51ページ)をご参照ください。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません。電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(13ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。異常ではありません。
この楽器から雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。楽器の近くでは携帯電話の電源を切ってください。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量が下がっています。[音量]スライダーで音量を上げてください(14ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。ヘッドフォンのプラグを抜くか、[SPEAKER]スイッチをONにしてください(14ページ)。
	[SPEAKER]スイッチがOFFになっています。[SPEAKER]スイッチをNORMALまたはONにしてください(14ページ)。
ローカルコントロールがオフになっています。ローカルコントロールをオンにしてください(48ページ)。	
ヘッドフォンを[PHONES]端子に差してもスピーカーから音が出る。	[SPEAKER]スイッチがONになっています。[SPEAKER]スイッチをNORMALにしてください(14ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください(59ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
スピーカーまたはヘッドフォンの音質や音量感が変わった。	本体のスピーカーまたはヘッドフォンから出力される音の音質は、AUX OUT端子への外部機器の接続状況に応じて適切な設定になるように自動的に切り替わります。39ページの表で確認してください。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
USB記憶装置がフリーズする、または動作しない。	メッセージが表示された場合は、メッセージ一覧(51ページ)をご確認ください。メッセージが表示されない場合は、USB記憶装置が壊れている可能性があります。

音色一覧

音色名	タッチによる音の強弱	ステレオサンプリング	キーオフサンプリング	音色紹介
コンサートグランド1	○	○	—	コンサートグランドピアノからサンプリングされたこの音色は、弱いタッチから強いタッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。また、ダンパーペダル使用時のペダル位置による音色変化など、さまざまな要素においてアコースティックピアノに極限まで近づけたぜいたくな音作りです。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
コンサートグランド2	○	○	—	スタンダードですが、温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に適しています。
メロウグランド1	○	○	—	アタック感がない、メロウなピアノの音です。静かなゆったりとした音楽に適しています。
メロウグランド2	○	○	—	温かみあるしっとりとしたピアノの音です。落ち着いた曲に合います。
ブライトグランド1	○	○	—	ブライトなピアノの音です。クリアに音を目立たせたい曲に適しています。
ブライトグランド2	○	○	—	少し明るめなピアノの音です。ポピュラー系の音楽にも適しています。
モダングランド	○	○	—	こじんまりまとまった響きのアップライト風ピアノです。いろいろな練習曲に合います。
オールドグランド	○	○	—	古い時代のピアノを連想させる軽やかなピアノの音です。
ジャズグランド	○	○	—	アタックのくっきりした明るいピアノの音です。ジャズなどの曲にも合います。
ポピュラーグランド	○	○	—	明るい響きを持った広がりあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に適しています。
エレクトリックピアノ	○	—	○	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
ハーブシコード	—	○	○	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
パイプオルガン	—	○	—	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカブラーの音です。
ストリングス	○	○	—	ステレオサンプリングでリアルな響きをする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。

キーオフサンプリングとは

鍵盤を離れたときの微妙な発音をサンプリングしたものです。

曲一覧

プリセット1 (ピアノ曲50曲)

付属の「ピアノで弾く名曲50選」に楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

曲番号	曲名	作曲者
001	インベンション 第1番	J. S. バッハ
002	インベンション 第8番	J. S. バッハ
003	ガボット	J. S. バッハ
004	前奏曲 (平均律第1巻第1番)	J. S. バッハ
005	メヌエット 長調	J. S. バッハ
006	かっこう	L-C. ダカン
007	ピアノソナタ 第15番 第1楽章	W. A. モーツァルト
008	トルコ行進曲	W. A. モーツァルト
009	メヌエット 長調	W. A. モーツァルト
010	リトル・セレナーデ	J. ハイドン
011	ソナタ 第1番 終楽章「無窮動」	C. M. v. ウェーバー
012	エコーセス	L. v. ベートーヴェン
013	エリーゼのために	L. v. ベートーヴェン
014	トルコ行進曲	L. v. ベートーヴェン
015	ピアノソナタ 第8番 「悲愴」 第2楽章	L. v. ベートーヴェン
016	ピアノソナタ 第14番 「月光」 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
017	ピアノソナタ 第20番 長調 第1楽章	L. v. ベートーヴェン
018	即興曲 作品90 第2番	F. P. シューベルト
019	楽興の時 第3番	F. P. シューベルト
020	春の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
021	狩人の歌	J. L. F. メンデルスゾーン
022	幻想即興曲	F. F. ショパン
023	雨だれの前奏曲	F. F. ショパン
024	黒鍵のエチュード	F. F. ショパン
025	別れの曲	F. F. ショパン
026	革命のエチュード	F. F. ショパン
027	小犬のワルツ	F. F. ショパン
028	ワルツ 第7番	F. F. ショパン
029	ワルツ 第9番 「告別」	F. F. ショパン
030	夜想曲 第2番 変ホ長調	F. F. ショパン
031	トロイメライ	R. シューマン
032	楽しい農夫	R. シューマン
033	乙女の祈り	T. バダジェフスカ
034	人形の夢と目覚め	T. エステン
035	アラベスク	J. F. プルグミュラー
036	牧歌	J. F. プルグミュラー
037	貴婦人の乗馬	J. F. プルグミュラー
038	愛の夢 第3番	F. リスト
039	花の歌	G. ラング
040	舟歌	P. I. チャイコフスキー
041	ヘ調のメロディ	A. ルビンシテイン
042	ユーモレスク	A. ドヴォルザーク
043	タンゴ (スペインより)	I. アルベニス
044	エンターテイナー	S. ジョブリン
045	メイプル・リーフ・ラグ	S. ジョブリン
046	亜麻色の髪の乙女	C. A. ドビュッシー
047	アラベスク 第1番	C. A. ドビュッシー
048	月の光	C. A. ドビュッシー
049	夢	C. A. ドビュッシー
050	ケークウォーク	C. A. ドビュッシー

プリセット2 (クラシック曲50曲)

曲番号	曲名	作曲者
001	イタリア協奏曲 第1楽章	J. S. バッハ
002	きらきら星変奏曲	W. A. モーツァルト
003	ロンド 二長調 K.485	W. A. モーツァルト
004	メヌエット 長調 WoO.10-2	L. v. ベートーヴェン
005	ソナチネ 第1番 第1楽章 op.20-1	F. クーラウ
006	ワルツ 第10番 op.69-2	F. F. ショパン
007	華麗なる大円舞曲	F. F. ショパン
008	練習曲 「エオリアンハーブ」 op.25-1	F. F. ショパン
009	前奏曲 第7番 op.28-7	F. F. ショパン
010	夜想曲 第1番 op.9-1	F. F. ショパン
011	夜想曲 第8番 op.27-2	F. F. ショパン
012	夜想曲 第9番 op.32-1	F. F. ショパン
013	夜想曲 第20番 遺作	F. F. ショパン
014	幻想小曲集 「夕べに」 op.12-1	R. シューマン
015	子供の情景 「見知らぬ国と人びとから」 op.15-1	R. シューマン
016	子供の情景 「不思議なお話」 op.15-2	R. シューマン
017	子供の情景 「鬼ごっこ」 op.15-3	R. シューマン
018	子供の情景 「炉端で」 op.15-8	R. シューマン
019	アラベスク 八長調 op.18	R. シューマン
020	子供のためのアルバム 「メロディ」 op.68-1	R. シューマン
021	子供のためのアルバム 「小さな曲」 op.68-5	R. シューマン
022	子供のためのアルバム 「輪唱歌」 op.68-22	R. シューマン
023	森の情景より 「森の入り口」 op.82-1	R. シューマン
024	25の練習曲 「スティリアンヌ」	J. F. ブルグミュラー
025	25の練習曲 「アヴェマリア」	J. F. ブルグミュラー
026	25の練習曲 「天使の声」	J. F. ブルグミュラー
027	25の練習曲 「舟歌」	J. F. ブルグミュラー
028	ラ カンパネラ	F. リスト
029	コンソレーション 第3番	F. リスト
030	四季 「秋の歌」	P. I. チャイコフスキー
031	勿忘草	H. リヒナー
032	抒情小品集 第1集 「アリエッタ」 op.12-1	E. H. グリーグ
033	抒情小品集 第3集 「蝶々」 op.43-1	E. H. グリーグ
034	抒情小品集 第3集 「春に寄す」 op.43-6	E. H. グリーグ
035	抒情小品集 第5集 「夜想曲」 op.54-4	E. H. グリーグ
036	抒情小品集 第10集 「夏の夕べ」 op.71-2	E. H. グリーグ
037	森のスケッチ 「野ばらに寄す」 op.51-1	E. A. マクダウエル
038	ベルガマスク組曲 「プレリュード」	C. A. ドビュッシー
039	ベルガマスク組曲 「パスピエ」	C. A. ドビュッシー
040	レントより遅く (ワルツ)	C. A. ドビュッシー
041	無言歌 第3番 op.17-3	G. フォーレ
042	ジムノペディ 第1番	E. サティ
043	ジュ トゥ ヴ	E. サティ
044	愛の挨拶 op.12	E. エルガー
045	亡き王女のためのパヴァーヌ	M. ラヴェル
046*	子供の遊び 「子守歌」 op.22-3	G. ピゼー
047*	ワルツ 第15番 op.39-15	J. ブラームス
048*	スラブ舞曲集 第1集 第8番 Op.46-8	A. ドヴォルザーク
049*	小組曲 「小舟にて」	C. A. ドビュッシー
050*	ドリー 「子守歌」 op.56-1	G. フォーレ

*連弾曲です。右手パートが第1奏者用、左手パートが第2奏者用です。

初期設定一覧

項目	初期設定値	バックアップオン/オフ設定
タッチ感度	ミディアム	F7.1
タッチ感度がフィックスのときの音量	64	
メトロノーム	オフ	—
メトロノームの拍子	0 (無拍子)	F7.1
テンポ	120	—
音色	コンサートグランド1	F7.1
デュアル	オフ	F7.1
リバーブの種類、かかり具合	音色ごとの設定値	F7.1
エフェクトの種類、かかり具合	音色ごとの設定値	
移調の値	0	F7.3
プリリアンスの種類	ノーマル	F7.4
I. A.コントロール	オン	F7.4
I. A.コントロールのかかり具合	0	

ファンクション

ファンクション番号	項目	初期設定値	バックアップオン/オフ設定
F1.	音の高さ	A3=440Hz	F7.3
F2.1	音律	1 (平均律)	
F2.2	基音	C	
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごとの設定値	F7.1
F3.2	デュアル 音の高さのずらし具合	音色の組み合わせごとの設定値	
F3.3、F3.4	デュアル オクターブシフト	音色の組み合わせごとの設定値	
F3.5、F3.6	デュアル エフェクトのかかり具合	音色の組み合わせごとの設定値	
F4.1	[スタート/一時停止]機能のペダルへの割り当て	OFF	F7.4
F4.2	ハーフペダルポイント	0	
F4.3	ダンパーレゾナンスのかかり具合	音色ごとの設定値	F7.1
F4.4	ソフトペダル効果のかかり具合	5	F7.4
F4.5	曲の再生チャンネル	ALL (オール)	F7.4
F5	メトロノーム音量	15	F7.1
F6.1	MIDI送信チャンネル	1	F7.2
F6.2	MIDI受信チャンネル	ALL (オール)	
F6.3	ローカルコントロール	ON	
F6.4	プログラムチェンジ	ON	
F6.5	コントロールチェンジ	ON	
F7.1~F7.4	バックアップ設定	音色関連項目の設定のみOFF、その他の設定はON	*
F7.5	文字種の切り替え	JA	

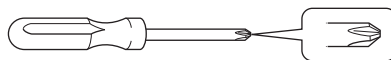
[*] の項目は常にバックアップされます。

組み立て

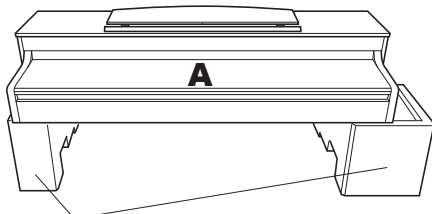
⚠ 注意

- ・硬くて平らな場所で組み立ててください。
- ・部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ・ネジは付属の指定サイズ以外のもは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ・ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ・解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

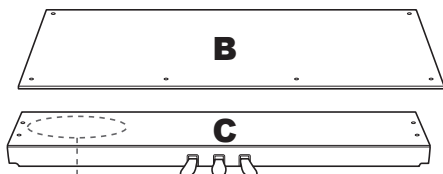
ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



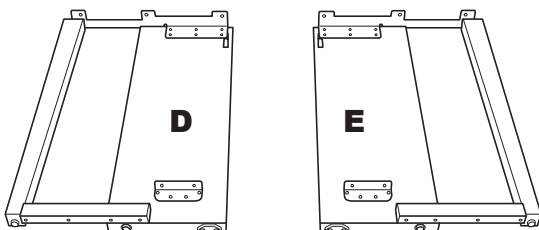
すべての部品を取り出し、部品がそろっていることを確かめてください。



ステンロールパッド
ステンロールパッドを取り出し、その上にAを置く。
ステンロールパッドはA底面の端子を避けて配置する。



裏側にベダルコードが束ねてあります。



— ネジセット —

長いネジ(6×20mm): 4本 先のとがったネジ(4×20mm): 4本



短いネジ(6×16mm): 6本 コードホルダー: 2個



細いネジ(4×12mm): 2本

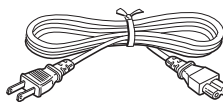


— ヘッドフォンハンガーセット —

細いネジ(4×10mm): 2本 ヘッドフォンハンガー

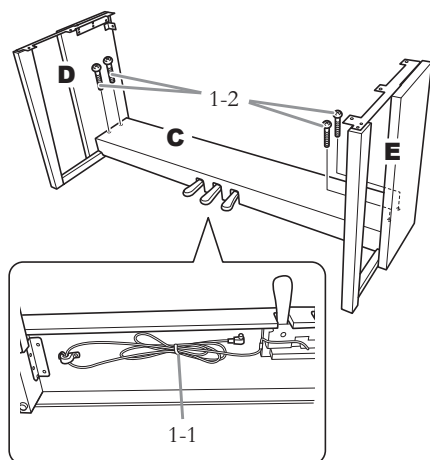


電源コード



1. DとEをCに固定する

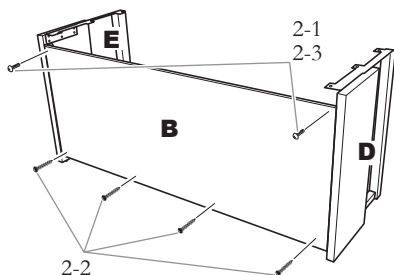
- 1-1 ペダルコードをほどく。
外したビニールひもは、手順5で使用します。
- 1-2 長いネジ(6×20mm) 4本できつく締め固定する。



2. Bを固定する

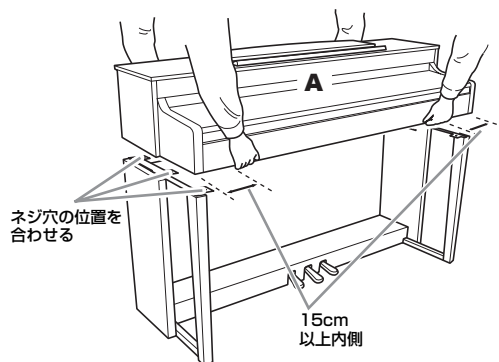
モデルによって、Bの裏表の色が違うものがあります。
演奏者側から見てB、D、Eの色が同じになるように取り付けてください。

- 2-1 Bのネジ穴とD、Eのネジ穴の位置を合わせ、上側を細いネジ(4×12mm) 2本で仮留めする。
- 2-2 下側を先のとがったネジ(4×20mm) 4本で締め固定する。
- 2-3 仮留めした上側のネジ(手順2-1)をきつく締め直す。



3. Aを載せる

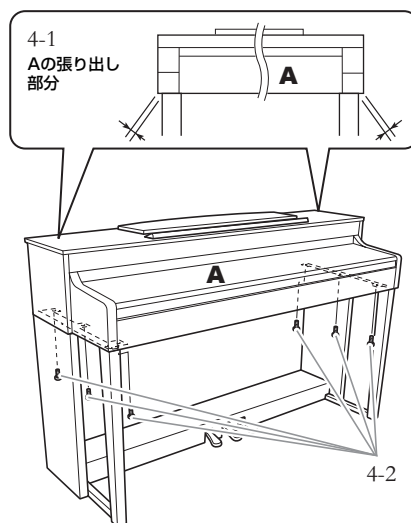
本体を持つときは底面端から15cm以上内側を持ってください。



- ⚠ 注意 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。
- ⚠ 注意 指定した位置以外を持たないでください。

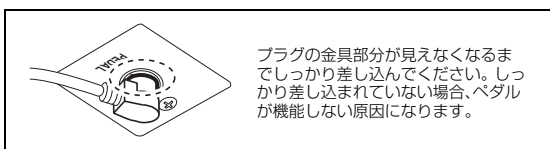
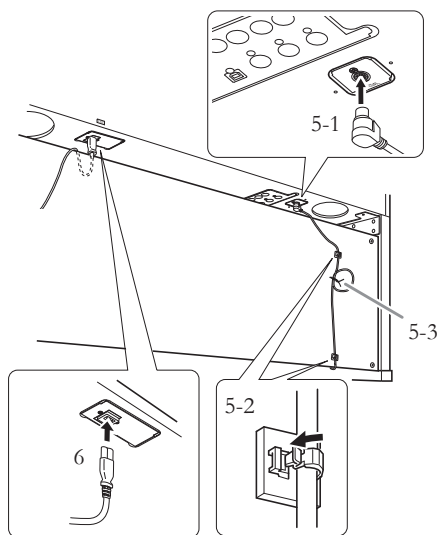
4. Aを固定する

- 4-1 前面から見て、Aの張り出し部分が左右均等になるように調整する。
- 4-2 前面から、短いネジ(6×16mm) 6本で固定する。



5. ペダルコードを接続する

- 5-1 ペダルコードのプラグをペダル端子に差し込む。
- 5-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定する。
- 5-3 ペダルコードをビニールひもで束ねる。

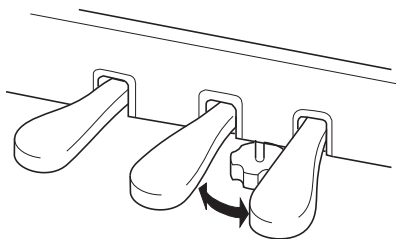


6. 電源コードを接続する

電源コードのプラグを差し込む。

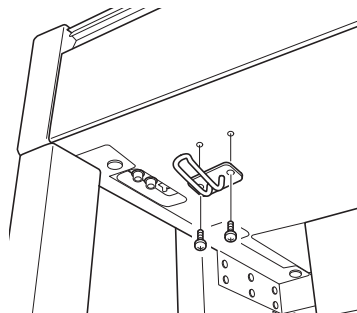
7. アジャスターを回す

アジャスターを回して、床にぴったりつける。



8. ヘッドホンハンガーを固定する

細いネジ(4×10mm) 2本で、図のように取り付ける。



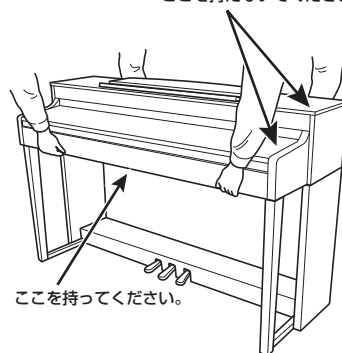
組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどが楽器にあたりませんか？
→ 楽器を移動してください。
- 楽器がぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→ アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状が出たら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

⚠ 注意

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。キーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

ここを持たないでください。



ここを持ってください。

仕様

サイズ/質量	幅×奥行×高さ (譜面立てを立てた場合)	1420×513×907 (1061)mm
	質量	60.5kg
操作子	鍵盤数	88
	鍵盤種	GH3
	タッチ感度	○
	ペダル数	3 (ダンパー、ソステナート、ソフト)
	ハーフペダル	○ (ダンパーペダル)
	ディスプレイ	7セグメントLED
	パネル言語	日本語
本体	キーカバー (鍵盤蓋)	スライド式
	譜面立て	○
音源/音色	音源方式	リアルグランドエクスプレッション(RGE)
	ピアノ音源の効果	スムーズリリース ○
	最大同時発音数	128
	音色数	14
効果/機能	ブリリアンス	5タイプ
	リバーブ	4タイプ
	エフェクト	4タイプ
	デュアル	○
	インテリジェントアコースティックコントロール	○
再生	プリセット	曲数 100曲(ピアノ曲50曲、クラシック曲50曲)
	ほか	データ容量(最大) 約550KB/曲
	フォーマット	SMF (フォーマット0、フォーマット1)、ESEQ (ピアノプレーヤ用の曲のみ)
録音	曲数	「ユーザー」ドライブ 10曲
		「USB」ドライブ 最大100曲
	トラック数	2
	データ容量(最大)	「ユーザー」ドライブ 約1.5MB (約550KB/曲)
		「USB」ドライブ USB記憶装置の容量による
フォーマット	SMF (フォーマット0)	
全体設定	メトロノーム	○
	テンポ	○
	移調	○
	チューニング	○
	スケール(音律)	7タイプ
メモリー	内蔵メモリー	約1.5MB
	外付けドライブ	USB記憶装置(別売)
接続端子	ヘッドフォン	× 2
	MIDI	[IN][OUT][THRU]
	AUX IN	[L/L+R][R]
	AUX OUT	[L/L+R][R]
	[USB TO DEVICE]	○
	USB [TO HOST]	○
アンプ/スピーカー	アンプ出力	30W × 2
	スピーカー	16cm × 2
電源	定格電源	AC100V 50/60Hz
	消費電力	25W
付属品	保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選(楽譜集)、ヘッドフォン、電源コード、高低自在イス、ユーザー登録のご案内	

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-160

索引

I	
I. A.コントロール	14
M	
MIDI設定	47
MIDI入門	7
MIDIリファレンス	7
P	
PDFマニュアル	7
U	
USB記憶装置	40
イ	
一時停止	24
インテリジェント アコースティック コントロール	14
エ	
エフェクト	21
エフェクト(デュアル)	46
オ	
お手入れ	18
音色	19
音色(デュアル)	22
音律(調律法)	45
音量	14
音量(デュアル)	46
音量(メトロノーム)	47
カ	
外部の曲	23
画面→メッセージ	51
キ	
キーカバー	12
キー(調)	21
基音	45
曲の種類	23
ク	
組み立て	57
繰り返し再生	27
コ	
困ったときは	52
コンピューター	41
サ	
削除(本体に録音した曲)	31
削除(USB記憶装置内の曲)	36
シ	
初期化(本体)	50
初期化(USB記憶装置)	37
初期設定一覧	56
初期設定とは	50
シンクロスタート	25
ス	
スケール→音律	45
スピーカー	14
タ	
タッチ感度	16
端子	38
ダンパーレゾナンス	46
チ	
チューニング(音の高さ)	45
調律(音の高さ)	45
調律法(音律)	45
テ	
デモ曲	19
デュアル	22, 46
電源	13
テンポ(曲の再生)	24
テンポ(メトロノーム)	17
ト	
ドライブ	23
ハ	
パート(再生)	26
パート(録音)	30
ハーフペダル	15
バックアップオン/オフの設定	49
バックアップデータの保存/読み込み	50
早送り	24
ヒ	
拍子	17
表示→メッセージ	51
フ	
ファイル操作	33
ファンクションでの基本操作	44
フォーマット(初期化)	37
付属品	7
ふた→キーカバー	12
譜面立て	12
プリセット曲	23
プリリアンス	20
ヘ	
ペダル	15, 46
ヘッドフォン	14, 60
ヘッドフォンハンガー	14
ホ	
ボイス→音色	19
ボリューム→音量	14
ボリューム→音量(デュアル)	46
ボリューム→音量(メトロノーム)	47
マ	
巻き戻し	24
ミ	
ミュージックソフトダウンローダー	42

メ	
メッセージ.....	51
メトロノーム.....	17
モ	
文字種.....	49
ユ	
ユーザー曲.....	23
リ	
リバーブ.....	20
リピート→繰り返し.....	27
ロ	
録音.....	28
録音データ.....	31

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡しますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6カ月です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例
ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、
リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)  **0570-012-808**
市内通話料でOK
ナビダイヤル® ※一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、
土曜日 9:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 053-463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝日および弊社休業日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南10条西1丁目1-50

ヤマハセンター内

FAX 011-512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

京浜トラックターミナル内14号棟A-5F

FAX 03-5762-2125

名古屋サービスセンター

〒454-0058

名古屋市中川区玉川町2丁目1-2

ヤマハ(株)名古屋倉庫3F

FAX 052-652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052

吹田市広芝町10-28

オーク江坂ビルディング2F

FAX 06-6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX 092-472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

● 電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル  **0570-006-808**

携帯電話、PHS、IP 電話からは 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

ピアノ / キーボードのホームページ

<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

ヤマハ株式会社

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PK グループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

U.R.G., Digital Musical Instruments Division
© 2011 Yamaha Corporation

104MWCR*.*-01A0

WW94590